

# 通学合宿

テンちゃん一家の一週間

事業報告書

通学型長期宿泊体験で生きる力を



# はじめに

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立岩手山青少年交流の家

所長 松 田 栄 二

学習指導要領では、子供たちの「生きる力」をよりいっそう育むことを目指しています。「生きる力」とは、「確かな学力（知）」・「豊かな人間性（徳）」・「健康・体力（体）」のバランスのとれた力をいい、この3つをバランスよく育てることが大切とされています。平成24年度から国立岩手山青少年交流の家で始まった通学合宿「テンちゃん一家の一週間」は、6泊7日という長期の集団宿泊体験活動であり、先に述べた「生きる力」を育むプログラムとしてその役割を果たしているものと思っております。このことは、合宿ごとに行っている調査（IKR 調査・EQSC 調査）の結果からも明らかであります。

通学合宿の名のとおり、子どもたちは日中は学校に通い、下校後は交流の家で過ごします。交流の家での生活は日常の家庭生活とは切り離れた環境ではありますが、学校からの宿題を行い、食事をし、お風呂に入って就寝するという生活サイクル自体は、家庭で普段営んでいる生活と全く次元の違うことをしているではありません。違う環境とえば、当然のことながら場が異なること、親が不在なこと、仲間との共同生活であること、などです。この環境下での生活においては、様々な出来事が起こります。友達とのいざこざ、グループ間の不協和音・・・それらを体験しながら子供たちは少しずつ変わっていきます。グループの子の作業を待ってあげたり手伝ったり、困っている子へのいたわりの声掛けだったり、そういった姿が合宿後半には随所に見られるようになります。集団生活のマナーや人との関わり方を学び、今後の社会生活を営む上での貴重な体験の機会となっているといえます。

日常とは一味違った環境下とともに、集団作りの活動や自己を見つめる時間等を一週間の中にプログラミングし、子供たちの成長を助長しています。また、子供たちの心情に寄り添い、苦楽を共にしながら指導・援助にあたる学生ボランティアによって子供たちは安心して存分に自己を表現させます。この通学合宿での子供たちの成長には学生ボランティアの存在がなくてはならないものであります。また、教職を目指す学生ボランティアにとってはこの通学合宿は教師鍛錬・人間鍛錬の絶好の場となります。

通学合宿が始まって4年、鶉飼小学校からスタートし、その後対象校が変わりながら昨年度からは滝沢第二小学校と滝沢東小学校の合同という形で実施し、着実に成果を上げてまいりました。通学合宿の実施に当たっては、滝沢市教育委員会の後援のもと、多大な御支援と御協力をいただいております。また、参加する子供の保護者の皆様、対象校の先生方にも御協力いただきながら成り立っている事業でもあります。さらに、学生ボランティアの皆様には合宿期間中は勿論のこと、運営全般において尽力いただいております。これまでの関係の皆様から賜りました御支援御協力に対し、紙面をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

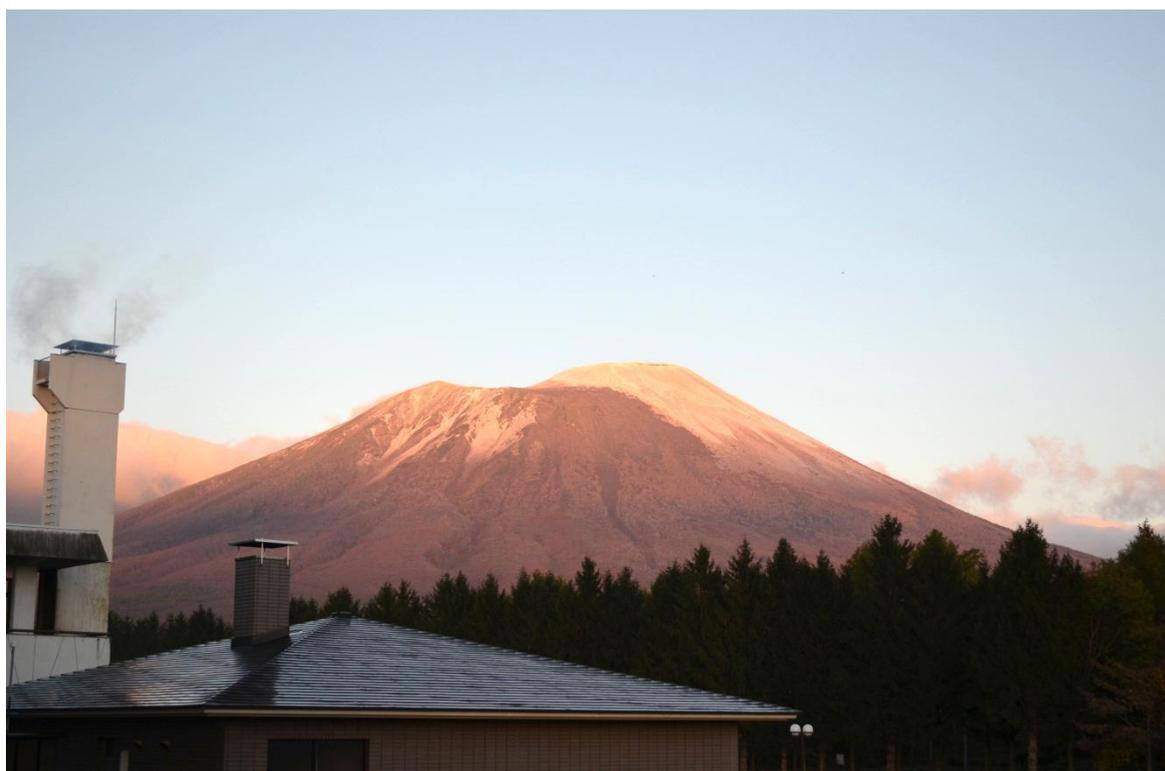
これまでに上がった成果とさらなる高みを目指すための課題をとおし、よりよい事業となるよう精進してまいり所存です。今後ともなお一層の御支援御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成28年2月

# 目 次

はじめに 国立岩手山青少年交流の家 所長

<b>I</b>	<b>事業概要</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>1</b>
1	趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	対象校及び期日・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3	参加人数内訳・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4	担当職員，ボランティアスタッフ等・・・・・・・・	2
<b>II</b>	<b>企画・運営のポイント</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>4</b>
1	対象校・保護者との連携・・・・・・・・	4
2	ねらいに迫るための運営・取り組み・・・・・・・・	5
<b>III</b>	<b>事業の実際</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>8</b>
1	事業展開・・・・・・・・・・・・・・・・	8
2	第1回「テンちゃん一家の一週間」(鶯飼小学校)・・・・・・・・	15
3	第2回「テンちゃん一家の一週間」(鶯飼小学校)・・・・・・・・	18
4	第3回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢東小学校)・・・・・・・・	21
5	第4回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)・・・・・・・・	24
6	第5回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)・・・・・・・・	27



IV	通学合宿の効果	30
1	生きる力・情動知能とは	30
2	第1回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)	31
3	第2回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)	35
4	第3回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢東小学校)	39
5	第4回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)	43
V	保護者アンケートから	47
VI	ボランティアレポート	50
1	テンちゃん一家の一週間組織図	50
2	ボランティアスタッフのレポート(日々のふりかえりシートから)	51
3	ボランティアスタッフのレポート(事業を終えてのふりかえりシートから)	54
VII	成果と課題	56
1	成果	56
2	課題	56



# I 事業概要

## 1 趣旨

日常の家庭生活とは切り離れた環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図る。

## 2 対象校及び期日

- 第1回「テンちゃん一家の一週間」 滝沢村立鶺鴒小学校  
平成24年11月11日(日) ～ 11月17日(土) 6泊7日
- 第2回「テンちゃん一家の一週間」 滝沢村立鶺鴒小学校  
平成25年10月27日(日) ～ 11月2日(土) 6泊7日
- 第3回「テンちゃん一家の一週間」 滝沢村立滝沢東小学校  
平成25年11月10日(日) ～ 11月16日(土) 6泊7日
- 第4回「テンちゃん一家の一週間」 滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校合同  
平成26年11月9日(日) ～ 11月15日(土) 6泊7日
- 第5回「テンちゃん一家の一週間」 滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校合同  
平成27年11月8日(日) ～ 11月14日(土) 6泊7日

※平成26年1月1日 滝沢村から滝沢市に市制移行

## 3 参加内訳

	4年生		5年生		6年生		合計	応募状況 ( )内は予定定員	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子			
第1回 鶺鴒小学校	11	4	15	12	1	0	43	43(30)	
第2回 鶺鴒小学校	8	6	6	8	7	8	43	75(30)	
第3回 滝沢東小学校	0	0	8	4	4	0	16	17(30)	
第4回	滝沢第二小学校	3	4	4	3	4	4	22	79(40)
	滝沢東小学校	2	5	3	1	3	5		
第5回	滝沢第二小学校	0	2	3	6	4	6	21	37(40)
	滝沢東小学校	2	1	1	4	3	3		
合計	24	19	36	28	19	17	143	251	





## II 企画運営のポイント

### 1 対象校・保護者との連携

#### (1) 学校への事前説明会

対象校と参加児童の保護者に事業の趣旨を理解いただき、協力を得ながら事業を運営するために、事前の説明会を行った。特に、初めての対象となる学校へは、PTA総会や学校行事など、教職員や保護者が一堂に会する機会に説明会を設定した。

#### ○事前説明会開催日

- ・平成24年10月20日（土） 鶴飼小学校学習発表会にて
- ・平成25年 4月27日（土） 滝沢東小学校PTA総会にて
- ・平成26年 4月26日（土） 滝沢第二小学校PTA総会、滝沢東小学校PTA総会にて

#### (2) 学校との情報交換

円滑な事業運営ができるように、また、参加児童が安心して1週間の合宿ができるように、対象校との情報交換や共有を密にした。とくに以下の点に留意した。

- ・事業期間中の学校行事や登下校時刻、学校への持ち物等を把握すること
- ・事業のプログラムについて学校へ情報提供すること
- ・児童の応募状況と、抽選による参加決定児童について学校へ情報提供すること
- ・参加が決定した児童について、配慮を必要とする事項（アレルギーや特別な支援等）を把握すること
- ・事業期間中に起きた児童の病気や怪我について、学校へ都度、情報を提供すること
- ・事業期間中の参加児童の活動ぶりや合宿の成果について、学校へ報告すること

#### (3) 保護者との情報交換

参加が決定した児童の保護者へは事前調査票を配布し、児童の健康状態や生活上配慮をしてほしいことなどを記入してもらいながら、児童についての把握を行った。

また、事業期間中の児童の様子について、病気や怪我、気になった点は情報提供したり相談したりしながら運営にあたった。

事業後には、学校への報告同様に、活動写真や報告書の提供をし、事業での児童の頑張ったことや成長の様子を伝えた。

事業の成果の把握や今後の事業運営の参考にするために、保護者に対する事業アンケート（事業の運営に関することや事業後の児童の家庭生活の様子など）も行った。

## 2 ねらいに迫るための運営・取り組み

### (1) 基本的な生活習慣を身に付けさせるための取り組み

#### ① 活動プログラムを1週間をとおして同じリズムにする。

→1週間決められた生活リズムを繰り返す。

(早寝早起きの習慣。学校から帰ったらまず宿題。)

→時間を意識して行動する。

#### ② 友達から受ける影響を考慮したグループ分けをする。

→異学年(異学校)のグループにより、色々な人からの影響を受けられるように。

#### ③ 子供たちの活動が自発的な行動になるように工夫する。

→やらされた活動では、すぐに元に戻ってしまう。子供達が自分自身でやろう!という気持ちになるように様々な工夫をした。



### (2) 子供たちの活動が自発的な行動になるための工夫

#### ① 自分達の家訓(ルール)を自分たちでつくる。

自分達でルールをつくることによって、ルールに対する自主性・自発性や責任感がますことをねらいとして以下のような方法で最終日までに家訓(ルール)を作り上げていった。

◇ビーイングを用いて毎日のふりかえり活動をする。

ビーイングとは? (やり方の例)



1) みんなの手をつなげる。



2) ペンで手をなぞる



3) 自分の手の中に目標を書く



6) 目標は増やしてもよい毎日ふりかえりながら書き加えていく



5) 目標のために必要なことを手の輪の中に、不要なことは輪の外に書く



4) 個人の目標を共有し、グループの目標を決める

自己主張が苦手な子どもにとっては参加して自分の意見を書き込むことがチャレンジになる子もいる。しかし、比較的自由に書き込める形式であるので、日が経つにつれて徐々に書き込みが増え、最終日が近づくと6)の写真のように書き込みが増え、整理するために2枚目に突入するグループもあった。

1日の最後の時間に、ふりかえりを行い、個人やグループの目標に対して、どういうところが良かったのか、また、どういう行動をされるとそれが達成できないとか、話し合いながら、良いこと悪いことを自分たちで決めて書き込んでいく。自分たちが思った事を文字に書き出していくことでピーニングがどんどん自分たちの思いのつまったものになっていった。

◇ピーニングを付箋紙に書き出しK J法の要領で整理する。(6日目夜)



1) ピーニングを見ながら自分が書いたことやキーワードを書きだす。

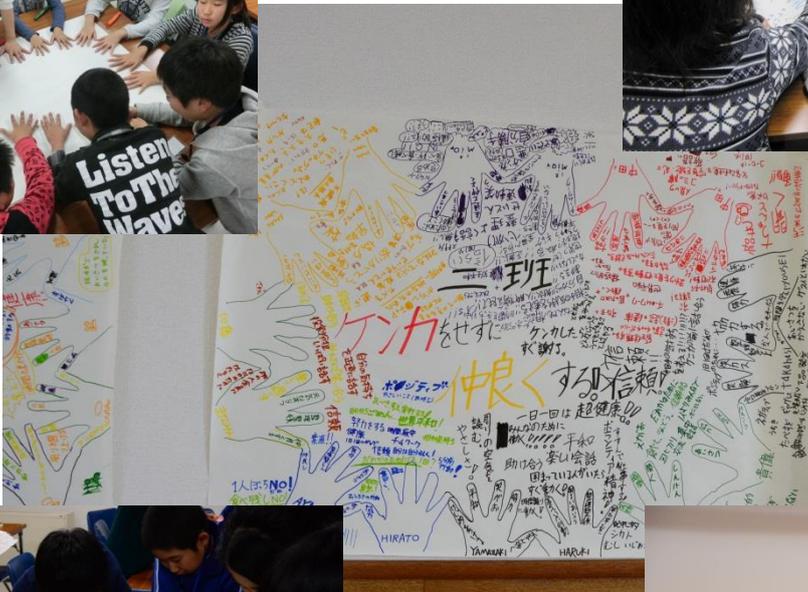


2) 書き出した付箋をグループにまとめる。(協力、規則、友情など)



3) グループの共通点などからさらにまとめ、家訓となる文章にまとめていく。

家訓づくりは1週間の集大成と位置づけており、子供たちもみんな一生懸命集中してまとめた。



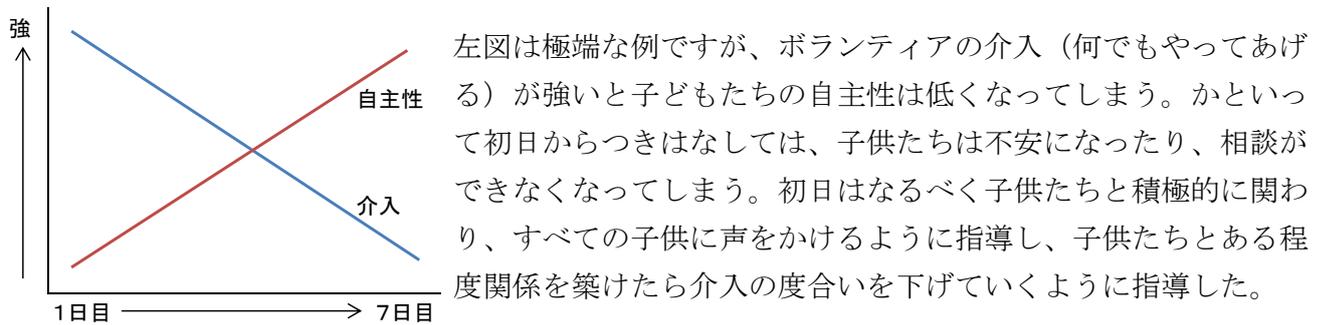
2



## ② ボランティアの関わり方

### ◇介入の度合いについて

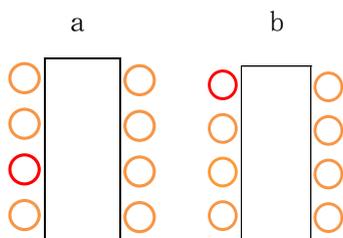
ボランティアスタッフには事前のミーティングで「介入の度合い」について確認した。



まだ大学1年生の経験が浅いボランティアにとっては難しい課題であったが、先輩ボラや職員のアドバイスを受けながら取り組んでいた。

### e x) 夜のミーティングでの具体的な指示

食事の時の座る場所について



初日はa図のように真ん中に入り、すべての子供に話かけられる場所に入り、グループ内でうまくまとめられるリーダーが現れればb図のように、うまくグループに入れていない子供がいればその子は自分の隣で会話に入れるようにフォローする。

### ◇声掛けの工夫

これはボランティアだけではなく職員も気を付けたところですが、子供たちへの指示の出し方も意識して行った。

### e x) 宿題の時間の場合

最初「○時から宿題の時間なので△△をもって■研修室に集まってください」

中頃「○時から宿題の時間です。何を持ってくればいいのかわかるよね」

最後「はい、今から何の時間かわかるよね」

これは例ですが、子供たちが自主的に行動できるように、全部指示するのではなく、逆に指示しなくても子供が自主的に動いているときは黙って見守るなど、子供たちの主体性を大切にしました。



# III 事業の実際

## 1 事業展開

### (1) 一週間の生活のきまりごとの確認

#### テンちゃん一家の家訓(お家の約束)

- 一. 心も身体も健康でいること
- 二. 元気にあいさつをかわすこと
- 三. 時間を守って行動すること
- 四. 自分でできることは自分ですること
- 五. 話をする人の目を見て聞くこと
- 六. グループや同じ部屋の人と行動すること
- 七. 一日一回は「ありがとう」と言うこと
- 八. 整理整頓に心がけること
- 九. 楽しむ時と、まじめに取り組む時の区切りをしっかりとつけること
- 十. こまったことがあったら友達やスタッフに相談すること

一週間を仲間とともに規則正しい生活をする中で、本事業の趣旨に迫っていく。食事や入浴、4～6人部屋での就寝などとおして、基本的な生活習慣とともに、人との関わりや集団生活のマナーを体験しながら学んでいく。同じ生活を平凡に繰り返していくだけではなく、知的好奇心を掻き立てるようなイベントや、ほかの学年や学校同士とも関わりながら遊びを楽しむような交流活動も行う。

通学合宿初日は、グループ作りやアイスブレイク、オリエンテーションなどを中心に活動するが、その中で、一週間の集団生活をしていく中で心がけるべきことを「テンちゃん一家の家訓」として提示し、子どもたち一人一人が意識して生活できるようにする。この家訓を核として生活し、毎日の反省をする時の視点にもする。

## (2) 家庭学習への取り組み



学校から送迎バスでテンパークへ帰ってくる → 自分の部屋（宿泊室）へ行き荷物を整理する  
→ 研修室へ行き家庭学習をする という一連の流れを一週間続けることで集中して学習することができる。職員やボランティアスタッフが見守り、時に指導する。また、親代わりに音読を聞き、音読カードにサインをする。全員が一つの研修室で一斉に家庭学習に取り組むが、遊んだり、ほかの子の邪魔をしたりする子はいない。子ども同士も打ち解けてくる合宿後半には、6年生が4年生に問題の解き方を教えるという光景も見られた。

### (3) 食事



毎日、決まった時刻に規則正しい食事をする。グループでみんなで楽しく食事できるのも通学合宿ならではの。グループリーダーのボランティアも、食事の様子から児童の心身の健康状態をみることができ。テンパークのレストランは、食べたいものを自分で選んで食べるバイキング形式だが、極端に少食だったり栄養に偏りがみられたりする場合は、児童の様子に気をつける。場合によっては指導するなどして、正しい食習慣を身に付けさせるようにしている。

#### (4) グループでの共同生活



生活の拠点は4～6人部屋の宿泊室。テンパークのルールに則り、一週間を過ごす。初日にはリネンコーナーからシーツと枕カバーを受け取り、自身の手でベッドメイキングをする。学習用具や着替えなどの荷物を自分で管理する。また、整理整頓にも心がけさせる。

(5) 学習・交流活動



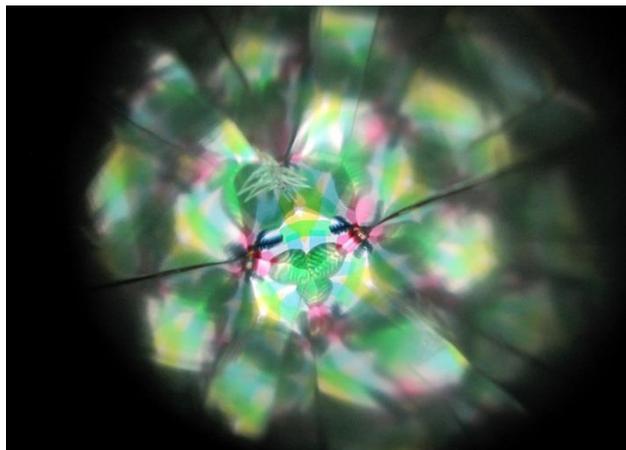
職員による科学実験ショー



交流レクリエーションゲーム



星空観察 (はじめに星座の話を行う)



## テンパークのプログラムの一つ「万華鏡づくり」



## 館内オリエンテーリング（グループの結束を深める）

通学合宿での一週間は、テレビやゲームなどに一切触れない「アウトメディア」の生活になる。その中で子どもたちは規則正しい生活をしていく。家庭で普段メディア等にふれたり、家族のだんらんをしたりする時間は、みんなで交流したり創作活動をしたりするイベントが待っている。

知的好奇心をもたせるような「科学実験ショー」、「星座観察」、コミュニケーションをとりながら楽しむ「交流レクリエーションゲーム」、記念の創作活動「万華鏡づくり」などを毎晩行いながら、仲間とともに楽しい毎日を過ごしていく。

## (6) 一週間の生活の証「家訓づくり」



毎日の就寝前には、グループでその日の生活ぶりを反省する。「がんばったこと」、「ダメだったこと」、「見つけた友達の良いところ」、「助かったこと」などを自由に模造紙に書き留めておく。と同時に、毎日の暮らしをしていく中ですべきことや気をつけるべきことなども記入していく。これを一週間続け、最終日には「テンちゃん一家の〇〇班の家訓」という形で、グループごとに表現（発表）する。今後の家庭生活でも、自分で体験し、感じ、見つけ、表現した「家訓」を活かしてほしいという願いからこの活動を一週間続けていく。

※詳細は、「Ⅱ企画運営のポイント 2ねらいに迫るための運営・取組 (2) 子供たちの活動が自発的な行動になるための工夫 (4～5ページ)」 参照

## 2 第1回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)

岩手山青少年交流の家としては初めてとなる「テンちゃん一家の一週間」。趣旨に迫るための一つとして。法人ボランティアの関わりも重要な要素を占める。法人ボランティアの育成も兼ねているので、ボランティアスタッフのうち3名は、同事業の経験豊富な国立妙高青少年自然の家の法人ボランティアに参加してもらい実施した。

### (1) 参加児童の内訳

< 鵜飼小学校 > 43名

- 4年生 15名 (男子11名、女子4名)
- 5年生 27名 (男子15名、女子12名)
- 6年生 1名 (男子1名)

### (2) 日程

		14:30	15:00	15:30	15:45	16:00	17:00	17:30	18:15	19:00	20:45	21:10	21:30			
11月11日	日	鵜飼小出発予定	受付	はじめの会	オリエンテーション	アイスブレイク	荷物移動 ベッドメイキング	夕食	入浴指導	学習時間 めあてをもとう	1日をふりかえる	就寝準備	就寝			
11月12日	月	6:10 起床 6:30 朝食	通学中 16:45ごろに岩手山青少年交流の家に到着				バス送迎		17:00	18:00	18:45	19:30	20:45	21:10	21:30	
11月13日	火	6:10 起床 6:30 朝食							17:00	18:00	18:45	19:30	20:45	21:10	21:30	
11月14日	水	6:10 起床 6:30 朝食							17:00	18:00	18:45	19:30	20:45	21:10	21:30	
11月15日	木	6:10 起床 6:30 朝食							12:50 放課 12:45 帰所	13:30 昼食	15:00 学習時間	16:30 キンボール	17:00 O班のオリジナル家訓作り	18:00 夕食	18:45 学習・交流 グッチーの楽しい 星空観察	20:00 入浴指導
11月16日	金	6:10 起床 6:30 朝食	通学中 16:45ごろに岩手山青少年交流の家に到着				バス送迎		16:10	17:00	18:00	18:45	19:30	20:45	21:10	21:30
11月17日	土	6:30 起床 7:30 朝食							8:20 清掃活動	8:45 退所点検	9:20 さよならパーティー	13:00 おわりの会	14:15 鵜飼小到着			

## はじめの会～アイスブレイク(1日目)



はじめの会とオリエンテーションを行った後、グループ編成を発表し仲間づくりを行った。そこでは、これから一週間の生活を共にするグループの仲間と打ち解けるため、グループ単位でのアイスブレイクに重点を置いた。同じ学校から参加しているとはいえ、初めて顔を合わせる子供同士も多かったため、初めは緊張が見られたものの、アイスブレイクによって打ち解けた様子だった。

## キンボール大会(5日目)



グループ対抗で大会をした。合宿も後半になってきており、グループ内で作戦を考えたり、声をかけあって動いたりすることができた。また、広い体育館で思いっきり体を動かし汗をかくことができたプログラムとしても盛況であった。

## 学習（毎晩）



通学バスで帰ってくるとすぐに家庭学習の時間となる。学校から出された課題や一人勉強を一人一人が集中して取り組む。子供たち全員が同じ研修室に集まって学習するが、遊んだりほかの子の邪魔をする子はいない。まわりがみんな集中して取り組んでいるので、「家よりも集中して勉強ができた」という感想をもつ子供が多かった。

## さよならパーティー（最終日）



最終日には、参加児童の保護者も招いて「さよならパーティー」を行った。レストランの食事を囲んで思い出話に花を咲かせ、別れを惜しんでいた。



### 3 第2回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)

平成25年度としては1回目の合宿。対象は昨年度に引き続き鵜飼小学校。昨年度に参加した児童を含め多くの応募があり、抽選で参加者を決定した。昨年度同様、一週間の約束を「家訓」として提示し、毎日の「ふりかえり」に盛り込みながら定着を図った。合宿後半には自分たちの成長を意識させながら、班毎の「家訓作り」を行い、家庭に帰ってからもめあてとして継続するようにした。

#### (1) 参加児童の内訳

< 鵜飼小学校 > 43名

- 4年生 14名 (男子8名、女子6名)
- 5年生 14名 (男子6名、女子8名)
- 6年生 15名 (男子7名、女子8名)

#### (2) 日程

10月27日	日		14:30	15:00	15:30	15:45	16:00	17:00	17:30	18:15	19:00	20:45	21:10	21:30
			鵜飼小出発予定	受付	はじめの会	オリエンテーション	館内オリエンテーション	荷物移動 ベッドメイキング	夕食	入浴指導	学習時間 めあてをもとう	1日を ふりかえる	就寝準備	就寝
10月28日	月	6:10 起床	6:30 朝食	通学中			16:00 バス送迎	17:00 学習時間	18:00 夕食	18:45 入浴指導	19:30 学習・交流 エコろうそく作り	20:45 1日を ふりかえる	21:10 就寝準備	21:30 就寝
10月29日	火	6:10 起床	6:30 朝食	12:30 バス送迎 (12:20放課)	13:15 昼食	14:00 ドッジビー大会		17:00 学習時間	18:00 夕食	18:45 入浴指導	19:30 学習・交流 お兄さん、お姉さんと レクリエーション	20:45 1日を ふりかえる	21:10 就寝準備	21:30 就寝
10月30日	水	6:10 起床	6:30 朝食	通学中			16:00 バス送迎	17:00 学習時間	18:00 夕食	18:45 グッチーの楽しい 星座観察	20:00 学習・交流 入浴指導	20:45 1日を ふりかえる	21:10 就寝準備	21:30 就寝
10月31日	木	6:10 起床	6:30 朝食	通学中		15:10 バス送迎	16:00 班のオリジナル家訓 作り	17:00 学習時間	18:00 夕食	18:45 入浴指導	20:00 自由遊び	20:45 1日を ふりかえる	21:10 就寝準備	21:30 就寝
11月1日	金	6:10 起床	6:30 朝食	通学中			16:00 バス送迎	17:00 学習時間	18:00 夕食	18:45 入浴指導	19:30 学習・交流 創作活動	20:45 1日を ふりかえる	21:10 就寝準備	21:30 就寝
11月2日	土	6:30 起床	7:30 朝食	8:20 清掃活動	8:45 退所点検	9:20 アンケート ふりかえり	11:00 おわりの会	11:50 鵜飼小 到着						

## 館内オリエンテーリング（1日目）



1週間の生活の拠点となる岩手山青少年交流の家の施設を把握することと、生活を共にするグループとのアイスブレイクをねらい、1日目に「館内オリエンテーリング」を実施した。同じ学校といえ、学年や学級が違うからか、なかなか打ち解けられずにいたグループも、この活動が終わるころにはすっかり打ち解けた様子だった。

## エコロウソクづくり（2日目）



第1回で実施した「科学実験」のコマを第2回では「エコロウソクづくり」を実施した。廃油を使い、それにクレヨンを溶かして色付けし、ジャム等の空き瓶に入れて固めてできあがり。様々な色のオリジナルロウソクができた。



## 星座観察（4日目）



晴天の夜空を眺めながらの星座観察もこの合宿の恒例プログラム。施設の周辺は街の明かりで星が邪魔されることがなく、星空を観察するには格好の場所である。知識豊富な職員による星座の話聞きながら星を眺めることで、寒空の下でも充実した、楽しい時間となった。



## 家訓づくり（6日目）



就寝前のグループでの生活の反省の最後(合宿最終日前夜)は、それまで書き綴ってきた「頑張ったこと」「ダメだったこと」「見つけた友達の良いところ」「助かったこと」などの内容をもとに、これから日常生活をするうえでの気をつけることや守るべきことなどをグループの「家訓」としてまとめた。子供達自らが一週間の共同生活を体験しての実態に即した「家訓」ができた。

## 4 第3回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢東小学校)

学校としては初めての対象となる滝沢東小学校。全校児童は303名(平成25年4月時点)で、鶉飼小学校のおよそ3分の1の児童数である。当然、この合宿を経験した児童はおらず、皆初めての参加となる。第2回とほぼ同様のプログラム内容で合宿を行った。ボランティアスタッフも第2回の経験をもとに合宿に臨むことができた。

### (1) 参加児童の内訳

<滝沢東小学校>

- 4年生 0名
- 5年生 12名(男子8名、女子4名)
- 6年生 4名(男子4名)

### (2) 日程

日	時刻	内容
11月10日	14:40	滝沢東小出発予定(送迎バス希望者)
	15:00	受付
	15:30	はじめの会
	15:45	オリエンテーション
	16:30	館内オリエンテーリング
	17:30	荷物移動 ベッドメイキング
	18:00	夕食
	18:45	入浴指導
	19:30	学習時間 めあてをもとう
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月11日	6:30	起床
	6:50	朝食
	7:40	通学バス出発
	16:10	学校発 バス移動
	17:00	学習時間
	18:00	夕食
	18:45	学習・交流 【星空観察】
	20:00	入浴指導
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月12日	6:30	起床
	6:50	朝食
	16:00	学校発 バス移動
	17:00	学習時間
	18:00	夕食
	18:45	入浴指導
	19:30	学習・交流 【サイエンスマジック ショー】
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月13日	6:30	起床
	6:50	朝食
	16:00	学校発 バス移動
	17:00	学習時間
	18:00	夕食
	18:45	入浴指導
	19:30	学習・交流 【万華鏡づくり】
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月14日	6:30	起床
	6:50	朝食
	16:00	学校発 バス移動
	17:00	学習時間
	18:00	夕食
	18:45	学習・交流 【レクリエーション】
	20:00	入浴指導
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月15日	6:30	起床
	6:50	朝食
	15:00	学校発 バス移動
	16:00	休憩
	17:00	学習時間
	18:00	夕食
	18:45	入浴指導
	19:30	学習・交流 【家訓づくり】
	20:40	1日をふりかえる
	21:10	就寝準備
	21:30	就寝
11月16日	6:30	起床
	7:30	朝食
	8:20	清掃活動
	8:45	退所点検
	9:20	ふりかえり活動 アンケート記入
	11:00	おわりの会
	11:50	滝沢東小到着

## ボランティアミーティング（1日目）



児童が集まる前には毎回必ずボランティアと職員が打合わせを行う。第2回の鵜飼小学校とほぼ同様のプログラム内容でボランティアも皆この合宿を経験してきた。しかし、参加児童が変われば様子も変わる、児童一人一人の実態も違う、ということで、馴れ合いにならぬように合宿のねらいを確認することから始め、プログラムや児童とのかかわり方などを入念に打合わせした。

## サイエンスマジックショー（3日目）



滝沢東小学校の参加児童にとっては初めての合宿であることから、昨年度の鵜飼小学校対象で行った「サイエンスマジックショー」を実施した。液体窒素を用いた実験「凍らせてみよう！」やメタノールを用いた実験「花火の秘密」、紫外線を照射するブラックライトを当てた「目には見えないはずなのに光る！」実験などを子供も参加しながら体験した。

## 一日の個人の反省（毎晩）



グループでのふりかえりが終わると、今度は自分自身の反省を毎晩行う。写真は、胸に手を当てて目をつぶり、一日の出来事を思い出している様子。「テンちゃん一家の家訓」に沿って、「時間を守って行動できたか」、「自分でできることは自分でできたか」、「整理整頓できたか」等の反省を記入することで、個人としての一日をふりかえる場となる。

## 家訓発表（最終日）



ビーイング（5～6 P参照）を用いて毎日のふりかえりを積み重ね、最終日にはグループで考えたルール（家訓）を発表する。合宿が終わっても各家庭で家訓を意識しながら生活できるようにする。



## 5 第4回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)

今年初めて二校で同日の開催とした。対象校は滝沢第二小学校が544名、滝沢東小学校299名(平成26年4月時点)である。滝沢第二小学校は今年度から初めて、滝沢東小学校は昨年度から2度目、この通学合宿に参加している。参加校の二校はどちらも滝沢第二中学校区にあり、卒業後同じ中学校に進学する。同じ中学校に入学する児童が小学校の時からお互いを知り合うことができる。

### (1) 参加児童の内訳

	<滝沢第二小学校(22名)>	<滝沢東小学校(19名)>
○4年生	7名(男子3名、女子4名)	7名(男子2名、女子5名)
○5年生	7名(男子4名、女子3名)	4名(男子3名、女子1名)
○6年生	8名(男子4名、女子4名)	8名(男子3名、女子5名)

### (2) 日程

日	時刻	14:30	14:40	15:00	15:30	15:45	16:00	17:30	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30			
11月9日(日)	日	※バス送迎希望者	滝沢東小学校発	滝沢第二小学校発	受付	はじめの会	オリエンテーション	アイスブレイク ふおとラリー	ベッドメイク 荷物整理等	夕食	一週間のめあてづくり	入浴	1日をふりかえる	就寝準備	就寝		
11月10日(月)	月	6:15起床	6:50朝食	通 学 中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30		
11月11日(火)	火	6:15起床	6:50朝食				16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30		
11月12日(水)	水	6:15起床	6:50朝食				16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30		
11月13日(木)	木	6:15起床	6:50朝食				15:00頃	15:30	17:00	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30		
11月14日(金)	金	6:15起床	6:50朝食				16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:50	21:10	21:30		
11月15日(土)	土	6:30起床	7:00朝食				8:20	8:45	9:20	10:30	11:35-45						
		朝のつどい朝食	清掃活動				退所点検	成果発表 ふりかえり活動 アンケート記入	おわりの会	滝沢東小→ 滝沢第二小着							

## 一週間の目標づくり（1日目）



一週間仲間とともに生活をするにあたり、提示された「テンちゃん一家の家訓」をもとに自分たちの班の目標作りを行った。ピーピングを用いて、自分の考えを書き込み、さらに、その目標達成のために必要なこと、してはいけないことなどを記入していった。この1日目に作った目標をもとに毎日の反省をし、新たな目標を付け加えるなどして、最終日まで自分たちの「家訓」を作っていく。

## スポーツ大会（5日目）



テンパークでの生活に慣れ、グループの交流が深まってきた頃の5日目に、体育館でスポーツ大会を開催した。テンパークカップ2014と題し、ドッジビーの競技で競い合った。

グループ総当たりで戦い、全グループと対戦することで他グループとの交流を深め、さわやかな汗をかくひと時を過ごした。

## 学習（音読）（毎日）



毎日の学習タイムで学校からの宿題や自由勉強が終わると、別室に移り、教科書の音読を行った。

テンパーク職員が保護者の代わりとなって音読を聞き、音読カードに記入した。初めは照れくさそうに音読をしていた児童もだんだん慣れ、気持ちを込め場面の様子が伝わるように真剣に音読をするようになった。

## 二校で一緒にバス通学（毎日）



テンパークのバスに毎朝と放課後に一緒に乗って、通学・下校した。滝沢東小と滝沢第二小の順はその日のスケジュールや学校行事により変えた。

先に乗って待っている児童は、グループの友達が早く来ないかと楽しみに待っているようだった。

テンパークまでの道のりを二校の児童で毎日仲良く通学した。

## 6 第5回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)

昨年度に引き続き、対象校は滝沢第二小学校525名、滝沢東小学校292名(平成27年4月時点)で二校同日の開催とした。卒業後同じ中学校に進学するため、お互いの学校の人と仲良く活動したい理由で参加する児童が多かった。基本的な生活習慣を身につけることとあわせて、中1ギャップの解消につながる事業と捉え、仲間と協力して取り組む活動にも重点をおいて合宿した。

### (1) 参加児童の内訳

	<滝沢第二小学校(21名)>	<滝沢東小学校(14名)>
○4年生	2名(男子0名、女子2名)	3名(男子2名、女子1名)
○5年生	9名(男子3名、女子6名)	5名(男子1名、女子4名)
○6年生	10名(男子4名、女子6名)	6名(男子3名、女子3名)

### (2) 日程

日	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容												
11月8日(日)		※バス送迎開始者	14:30	滝沢東小学校発	14:40	滝沢第二小学校発	15:00	受付	15:30	はじめの会	15:45	オリエンテーション	16:00	アイスブレイク 館内オリエンテーリング	17:30	ヘアメイク 荷物整理等	18:15	夕食	19:00	一週間のめあてづくり	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝
11月9日(月)	6:15	起床	6:45	朝のつどい 朝食	7:30	通学バス出発	16:00頃	学校発 バス移動	17:00	学習時間	18:00	休憩	18:15	夕食	19:00	学習・交流 【外チャププログラム】	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝				
11月10日(火)	6:15	起床	6:45	朝のつどい 朝食			16:00頃	学校発 バス移動	17:00	学習時間	18:00	休憩	18:15	夕食	19:00	学習・交流 【レクリエーション】	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝				
11月11日(水)	6:15	起床	6:45	朝のつどい 朝食			15:00頃	滝沢第二小学校発 バス移動	16:00頃	滝沢東小学校発 バス移動	17:00	学習時間	18:00	休憩	18:15	夕食	19:00	学習・交流 【創作活動・スーパー竹とんぼ】	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝		
11月12日(木)	6:15	起床	6:45	朝のつどい 朝食			15:00頃	学校発 バス移動	15:30	学習時間	17:00	自由あそび	18:15	夕食	19:00	学習・交流 【星空観察】	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝				
11月13日(金)	6:15	起床	6:45	朝のつどい 朝食			16:00頃	学校発 バス移動	17:00	学習時間	18:00	休憩	18:15	夕食	19:00	学習・交流 【家訓づくり】	20:00	1日をふりかえる	20:30	入浴	21:10	就寝準備	21:30	就寝				
11月14日(土)	6:30	起床	7:00	朝のつどい 朝食	8:20	清掃活動	8:45	退所点検	9:20	成果発表 ふりかえり活動 アンケート記入	10:30	おわりの会	11:35-45	滝沢東小→ 滝沢第二小着														

## 館内オリエンティング テンちゃん一家バージョン(1日目)



一週間仲間と共に生活する岩手山青少年交流の家の施設、場所を知るための館内オリエンティング。今回は、テンちゃん一家バージョンを作成して実施した。各班は、指令文を解読して、施設内に隠されているカラーボールを探し回った。開始したときは緊張した様子だったが、班の中で話し合い協力してボールをさがしていく中で、いつの間にか仲良く楽しみながら活動していた。

## アドベンチャープログラム(2日目)



グループの仲間といち早く打ち解けるために合宿前半にグループ単位での活動を中心とした活動「アドベンチャープログラム」を実施した。集団での遊びやグループで課題に挑戦していく活動をとおして、自分の考えを出し、話し合いをしていく中でグループで協力する姿勢が高まっていった。

## スーパー竹とんぼづくり（4日目）



創作活動では、「スーパー竹とんぼ」づくりに挑戦した。日常では、刃物を使う機会がほとんどなく、子どもたちのほとんどが小刀を初めて見たようで、自分で扱えるか不安そうだった。小刀の使い方を教え、最初は慎重に竹を削り始めたが、段々と要領をつかみ上手に竹とんぼを作り上げた。ドキドキわくわくの「スーパー竹とんぼ」づくりだった。

## 洗濯（4日目、5日目）

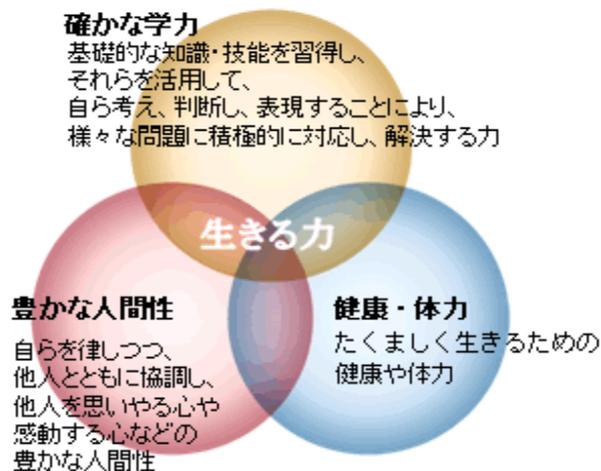


1週間をとおして、毎日、自身の衣服の管理や整頓を心がけた。4日目と5日目の下校後、各自で洗濯を行った。普段は、洗濯機を操作する児童は少ないようで、ドキドキしながら洗濯機を稼働させていた。洗濯物は、空き宿泊室に用意した物干し台に各自で干した。洗濯の時間には、洗濯の他に宿泊室と廊下の清掃をした。

# IV. 通学合宿の効果

## 1 生きる力・情動知能とは

### (1) 生きる力



「生きる力」＝知・徳・体のバランスのとれた力

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てることが大切であるとされている。

(出展) 文部科学省 HP

### ☆IKR 評定用紙(簡易版)

体験活動による教育的な効果を測る手法の一つとして、子どもの生きる力を手軽に測定できるように国立青少年教育振興機構に開発されたソフト。(国立青少年教育振興機構)

(出展) 独立行政法人国立青少年教育振興機構



### (2) 情動知能

Salovey & Mayer (1990) の定義により、自分の情動を知り衝動の自制ができる能力、自分の気持ちを自覚・尊重して納得のいく決断ができる能力、挫折したときでも絶望せずやる気を起こさせる能力、他者に共感を覚える能力、集団の中で調和を保ち協力しあえる対人関係能力などから成るとされ、心の知能指数とも呼ばれている。

(児童用情動知能尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討 2010 皆川)

### ☆EQSC (児童用情動知能尺度)

EQSC (児童用情動知能尺度) とは、情動知能指数を評価するために標準化の手続きを経て一般に市販された心理検査である情動知能尺度 (EQS) (13) を、皆川らが小学生の生活場面に照らして吟味・改訂して作成し、信頼性および妥当性をもつ尺度として立証したものである。この EQSC は、「自己対応」、「対人対応」、「状況対応」の 3 領域 12 下位因子から成り、各下位因子は、3 つの質問項目によって構成されており、合計 38 項目から成っている

### ○統計処理について

- ・生きる力については「IKR 評定用紙 (簡易版)」を使用し、調査及び統計処理を行った。
- ・情動知能については「EQSC (児童版情動知能尺度)」を使用し、統計処理については「JS-STAR 2012」を使用した。

## 2 第1回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)

平成24年11月11日(日)～17日(土)

### 生きる力<sup>(1)</sup>の向上

平成24年度参加した児童43名を対象として「IKR評定用紙(簡易版)<sup>(2)</sup>」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

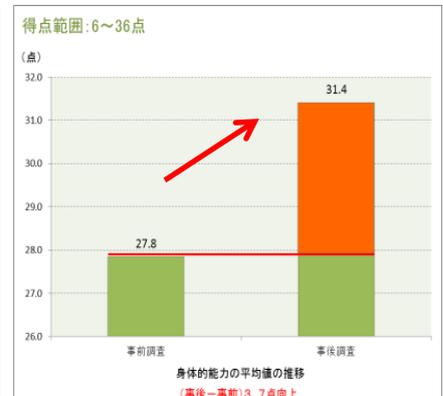
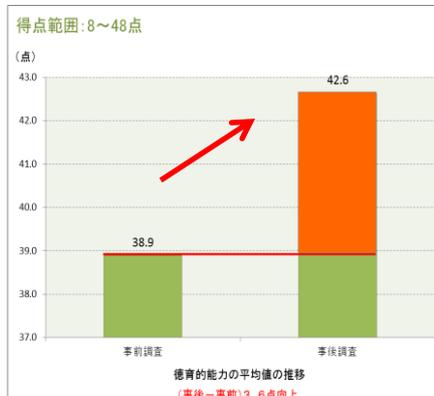
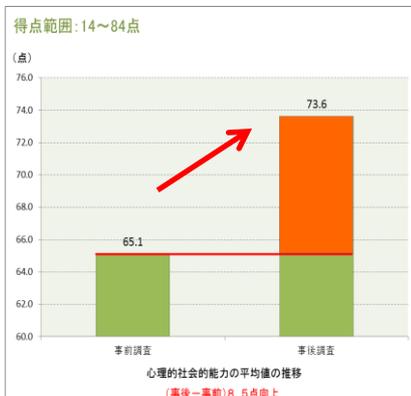
事前から事後にかけて「生きる力」の得点が上がることが分かった。また、「心理社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

#### ▶生きる力の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

#### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
<b>生きる力</b>			<b>131.8</b>	<b>147.7</b>	<b>*</b>
<b>心理的社会的能力</b>			<b>65.1</b>	<b>73.6</b>	<b>*</b>
非依存	1	いやなことは、いやとはっきり言える	5.0	5.6	*
	15	小さな失敗をおそれない	4.9	5.3	*
積極性	11	自分からすすんで何でもやる	4.7	5.3	*
	25	前向きに、物事を考えられる	4.7	5.3	*
明朗性	5	だれにでも話しかけることができる	4.9	5.5	*
	19	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.9	5.3	*
交友・協調	7	多くの人に好かれている	3.3	3.7	*
	21	だれとでも仲よくできる	5.1	5.7	*
現実肯定	9	自分のことが大好きである	3.9	4.7	*
	23	だれにでも、あいさつができる	4.9	5.7	*
視野・判断	3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.6	5.2	*
	17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.5	5.2	*
適応行動	8	人の話をきちんと聞くことができる	5.1	5.7	*
	22	その場にふさわしい行動ができる	4.7	5.4	*
<b>徳育的能力</b>			<b>38.9</b>	<b>42.6</b>	<b>*</b>
自己規制	14	自分かってな、わがままを言わない	4.7	5.1	*
	28	お金やモノのむだ使いをしない	5.0	5.3	*
自然への関心	6	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.3	5.1	*
	20	季節の変化を感じるができる	5.3	5.6	*
まじめ・勤勉	12	いやがらずに、よく働く	4.4	5.0	*
	26	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.4	5.6	*
思いやり	2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	5.3	5.6	*
	16	人の心の痛みがわかる	4.6	5.4	*
<b>身体的能力</b>			<b>27.8</b>	<b>31.4</b>	<b>*</b>
日常的行動力	13	早寝早起きである	4.4	5.4	*
	27	からだを動かしても、疲れにくい	4.8	5.2	*
身体的耐性	4	暑さや寒さに、まけない	4.7	5.5	*
	18	とても痛いケガをしても、がまんできる	5.0	5.1	*
野外技能・生活	10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.7	5.2	*
	24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.2	5.0	*

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者&保護者の声



お父さんやお母さんと離れて暮らすのはさびしいけれど、自分ができなかったことができるようになったり、友達がふえたりするということがあってとても楽しかった。(参加児童)

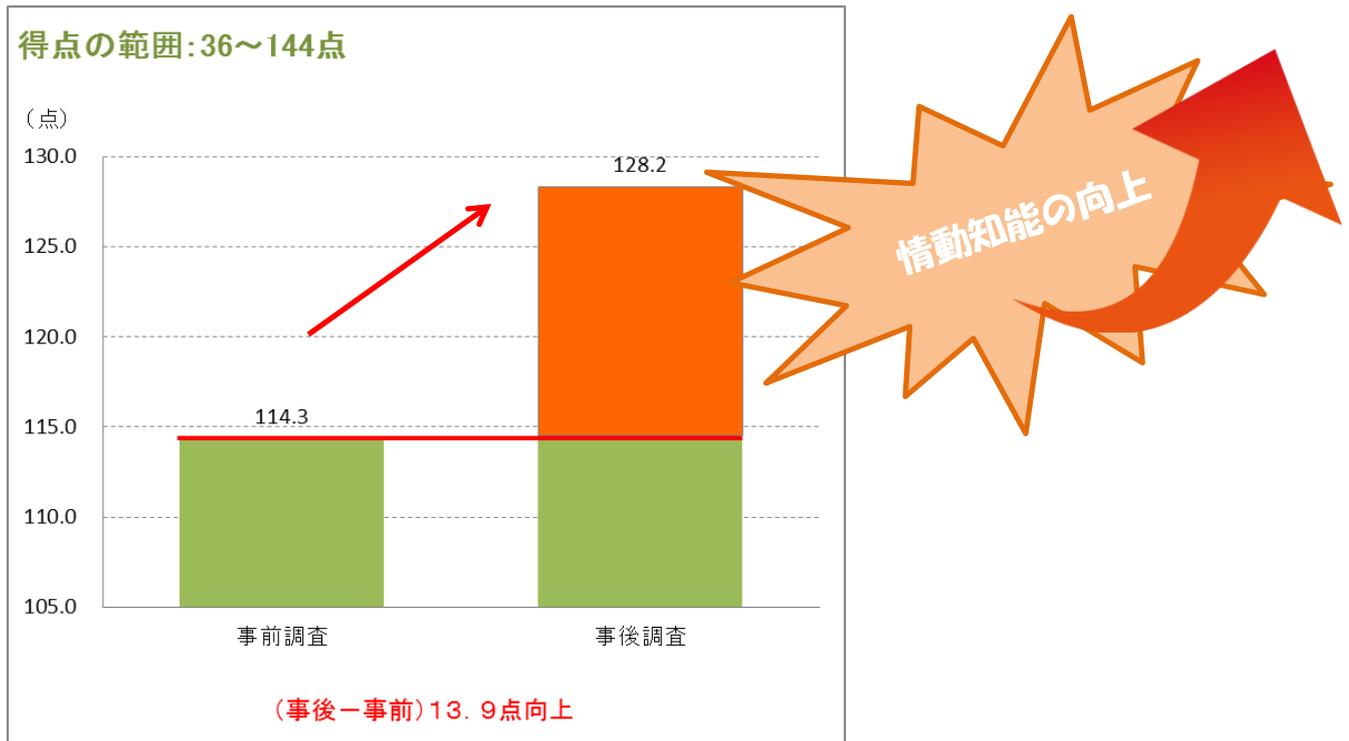
テレビ、ゲーム、マンガのない貴重な一週間を過ごさせていただいた。一週間ずっとお友達と過ごしたことにより、より友好的になったと思う。(保護者)

### 情動知能<sup>(3)</sup>の向上

平成24年度参加した児童43名を対象として「EQSC(児童用情動知能尺度)<sup>(4)</sup>」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

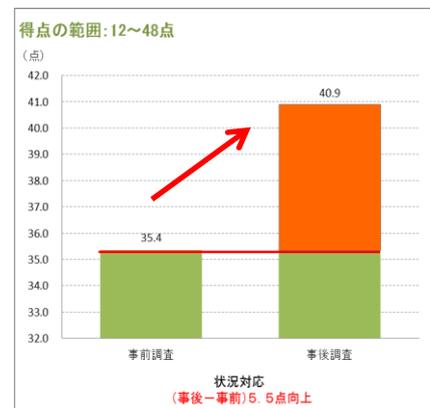
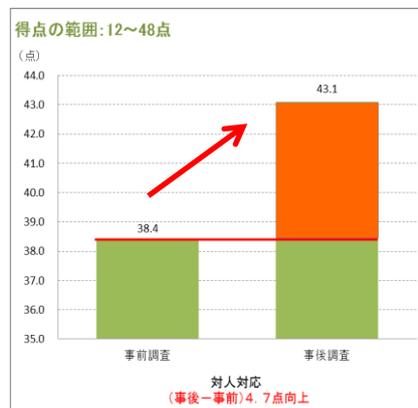
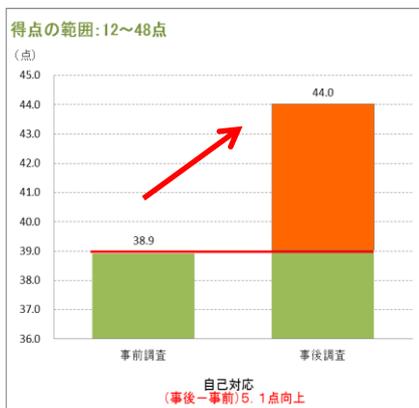
事前から事後にかけて「情動知能」の得点が上がることが分かった。また、「自己対応能力」「対人対応能力」「状況対応能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

#### ▶情動知能の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を4点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

#### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差	
			平均	平均		
情動知能			111.9	127.8	*	
自己対応能力			38.2	43.9	*	
自己対応能力	自己洞察	1	自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる	8.4	10.5	*
		2	自分の気持ちが、変化するのわかる			
		3	今の自分の気持ちを言葉で表すことができる			
	自己動機づけ	4	自分でやろうと思ってやり始めたことは、続けていきたい	10.0	11.3	*
		5	一度やり始めたことは、最後までやり通したい			
		6	すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている			
	目標追求	7	自分でやると決めたことは、やりとげるようにしている	10.1	11.1	*
		8	やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う			
		9	目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる			
	自制心	10	自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している	9.7	11.0	*
		11	休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる			
		12	いやなことがあっても、友達にやつあたりしない			
対人対応能力			38.4	43.1	*	
対人対応能力	共感性	13	友達が喜ぶことをしてあげたくなる	10.1	11.0	*
		14	どうすれば友達に喜んでもらえるかを考えたい			
		15	困っている友達がいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う			
	愛他心	16	友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う	10.0	11.1	*
		17	友達が嫌がることは言わない			
		18	困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う			
協力	19	だれにでも、進んで手を貸してあげられる	9.1	10.3	*	
	20	みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う				
	21	同じ友達とだけではなく、いろいろな友達と遊んでいる				
人材活用力	22	友達に手伝いをたのむことができる	9.2	10.8	*	
	23	けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある				
	24	初めて会った人も、すぐに友達になる				
状況対応能力			35.4	40.9	*	
状況対応能力	気配り	25	その場のふんいきをこわさないように気をつけている	9.5	10.6	*
		26	みんなで何かを決めるとき、みんなの意見をきちんと聞いて決めている			
		27	朝の会、帰りの会などの司会をテキパキとやることができる			
楽天主義	28	何かを始めるときには、うまくいこうと思う	9.6	10.7	*	
	29	失敗することを考えるより、まずやってみようと思う				
	30	今日うまくいかないことも、明日になればうまくいきそうだと思う				
リーダーシップ	31	リーダーとして、みんなをまとめていくことが得意である	7.2	8.8	*	
	32	自分が見つけた良い方法を、みんなにすすめることができる				
	33	みんなと相談するときには、まとめ役をすることが多い				
状況コントロール	34	班がえがあっても、すぐに班の人たちと仲良くできる	9.1	10.8	*	
	35	何か困ったことが起こっても、どうしたらよいのか考えられる				
	36	その場面に合わせて、行動することができる				

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

参加者 & 保護者の声



この一週間で、友達とのきずなが深まった。友達にいつもとはちがう面があったのもびっくりしたし、家にいる時より楽しく過ごせた。食事のマナーや部屋の整理整頓の大切さなど、色々なことを知ることができた。(参加児童)

一週間の集団生活で、自分だけではない他への優しさや協力する気持ちがより強くなったと思う。たくさんの活動をとおして子どもに色々な体験をさせていただいたようで、笑顔で帰って来た。(保護者)

### 3 第2回「テンちゃん一家の一週間」(鵜飼小学校)

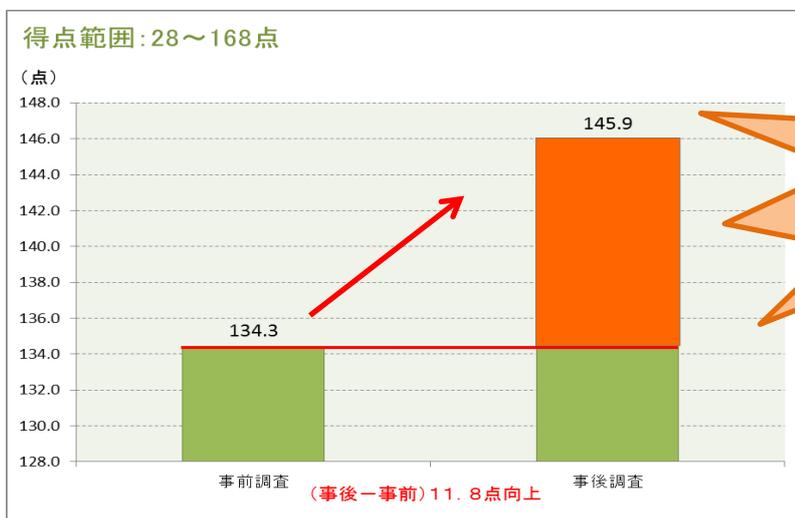
平成25年10月27日(日)～11月2日(土)

#### 生きる力の向上

平成25年度参加した児童43名を対象として「IKR評定用紙(簡易版)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

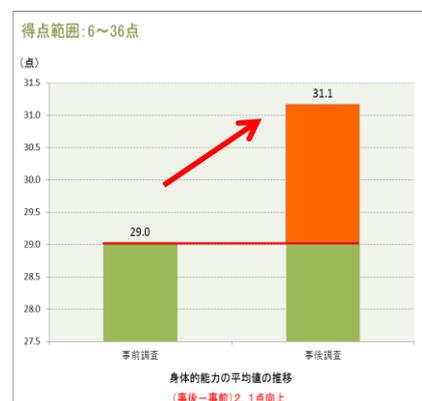
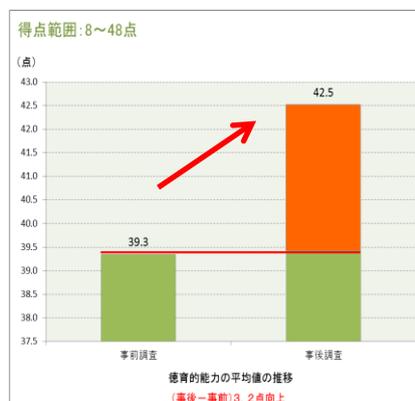
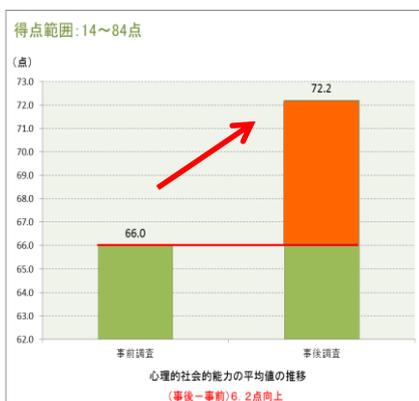
事前から事後にかけて「生きる力」の得点が上がることが分かった。また、「心理社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

#### ▶生きる力の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

#### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
<b>生きる力</b>			<b>131.8</b>	<b>147.7</b>	<b>*</b>
<b>心理的社会的能力</b>			<b>65.1</b>	<b>73.6</b>	<b>*</b>
非依存	1	いやなことは、いやとはっきり言える	5.0	5.6	*
	15	小さな失敗をおそれない	4.9	5.3	*
積極性	11	自分からすすんで何でもやる	4.7	5.3	*
	25	前向きに、物事を考えられる	4.7	5.3	*
明朗性	5	だれにでも話しかけることができる	4.9	5.5	*
	19	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.9	5.3	*
交友・協調	7	多くの人に好かれている	3.3	3.7	*
	21	だれとでも仲よくできる	5.1	5.7	*
現実肯定	9	自分のことが大好きである	3.9	4.7	*
	23	だれにでも、あいさつができる	4.9	5.7	*
視野・判断	3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.6	5.2	*
	17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.5	5.2	*
適応行動	8	人の話しをきちんと聞くことができる	5.1	5.7	*
	22	その場にふさわしい行動ができる	4.7	5.4	*
<b>徳育的能力</b>			<b>38.9</b>	<b>42.6</b>	<b>*</b>
自己規制	14	自分かってな、わがままを言わない	4.7	5.1	*
	28	お金やモノのむだ使いをしない	5.0	5.3	*
自然への関心	6	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.3	5.1	*
	20	季節の変化を感じるができる	5.3	5.6	*
まじめ・勤勉	12	いやがらずに、よく働く	4.4	5.0	*
	26	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.4	5.6	*
思いやり	2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	5.3	5.6	*
	16	人の心の痛みがわかる	4.6	5.4	*
<b>身体的能力</b>			<b>27.8</b>	<b>31.4</b>	<b>*</b>
日常的行動力	13	早寝早起きである	4.4	5.4	*
	27	からだを動かしても、疲れにくい	4.8	5.2	*
身体的耐性	4	暑さや寒さに、まけない	4.7	5.5	*
	18	とても痛いケガをしても、がまんできる	5.0	5.1	*
野外技能・生活	10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.7	5.2	*
	24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.2	5.0	*

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者&保護者の声



普段は経験できない一週間になった。大学生と一緒に過ごしとても楽しかった。いつもより集中して学習できた。(参加児童)

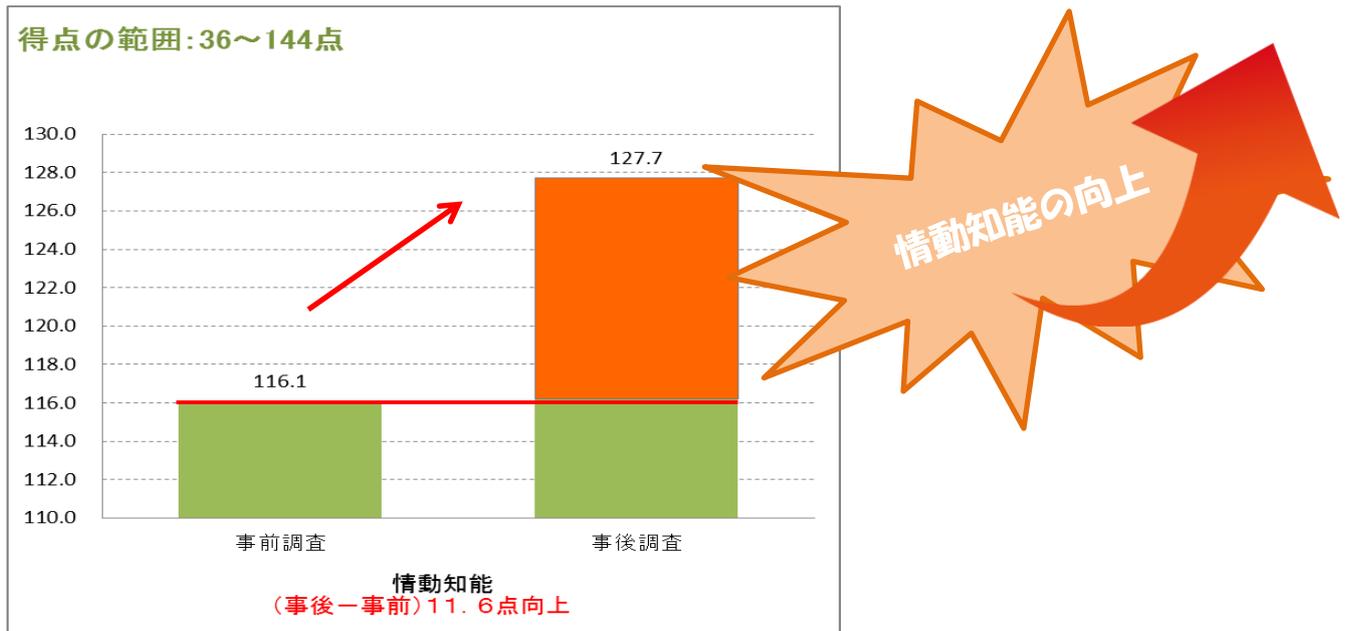
親の心配はよそに本人はすごく楽しかったと喜んで帰って来た。元々内気で家でも口数が少ない子だが、合宿後は話をしてくれることが多くなった。生活面だけでなく精神的に成長したと思う。一週間離れて生活する事をやりとげた自信のようなものをすごく感じる。とても貴重な一週間だったのだなとうれしく思う。(保護者)

## 情動知能の向上

平成25年度参加した児童43名を対象として「EQSC(児童用情動知能尺度)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

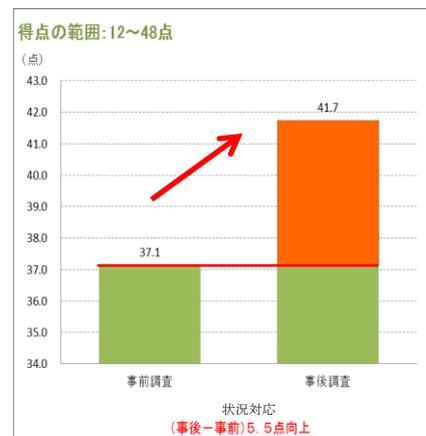
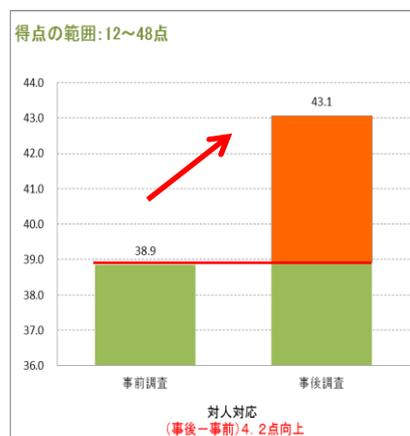
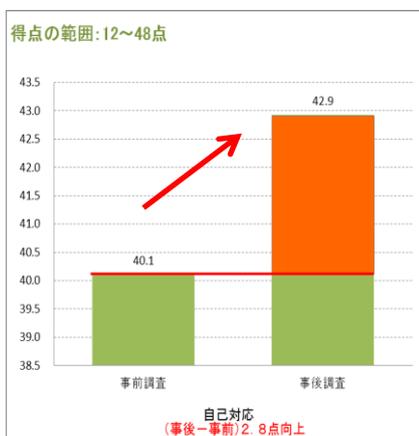
事前から事後にかけて「情動知能」の得点が上がることが分かった。また、「自己対応能力」「対人対応能力」「状況対応能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

### ▶情動知能の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を4点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
情動知能			116.1	127.7	**
自己対応能力			40.1	42.9	**
自己洞察	1	自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる	9.6	10.6	*
	2	自分の気持ちが、変化するのわかる			
	3	今の自分の気持ちを言葉で表すことができる			
自己動機づけ	4	自分でやろうと思ってやり始めたことは、続けていきたい	10.4	11.0	*
	5	一度やり始めたことは、最後までやり通したい			
	6	すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている			
目標追求	7	自分でやると決めたことは、やりとげようとしている	10.1	10.8	*
	8	やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う			
	9	目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる			
自制心	10	自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している	9.9	10.5	*
	11	休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる			
	12	いやなことがあっても、友達にやつあたりしない			
対人対応能力			38.9	43.1	**
共感性	13	友達が喜ぶことをしてあげたくなる	10.7	11.5	*
	14	どうすれば友達に喜んでもらえるかを考えたい			
	15	困っている友達がいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う			
愛他心	16	友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う	10.3	11.0	*
	17	友達が嫌がることは言わない			
	18	困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う			
協力	19	だれにでも、進んで手を貸してあげられる	8.8	10.3	*
	20	みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う			
	21	同じ友達とだけではなく、いろいろな友達と遊んでいる			
人材活用力	22	友達に手伝いをたのむことができる	9.0	10.3	*
	23	けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある			
	24	初めて会った人も、すぐに友達になる			
状況対応能力			37.1	41.7	**
気配り	25	その場のふんいきをこわさないように気をつけている	10.0	10.7	*
	26	みんなで何かを決めるとき、みんなの意見をきちんと聞いて決めている			
	27	朝の会、帰りの会などの司会をテキパキとやることができる			
楽天主義	28	何かを始めるときには、うまくいこうと思う	9.3	10.5	*
	29	失敗することを考えるより、まずやってみようと思う			
	30	今日うまくいかないことも、明日になればうまくいきそうだと思う			
リーダーシップ	31	リーダーとして、みんなをまとめていくことが得意である	8.1	9.7	*
	32	自分が見つけた良い方法を、みんなにすすめることができる			
	33	みんなと相談するときには、まとめ役をすることが多い			
状況コントロール	34	班がえがあっても、すぐに班の人たちと仲良くできる	9.6	10.8	*
	35	何か困ったことが起こっても、どうしたらよいのか考えられる			
	36	その場面に合わせて、行動することができる			

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者 & 保護者の声



テレビがないからつまらないと思っていたけど、たくさんの人達とあきることなく過ごして楽しかった。規則正しく生活できたし、グループで協力することもできた。この生活を続けたい。(参加児童)

まわりの事を考えて行動できるようになった。また、相手を思いやる気持ちが行動にも移せるようになったと思う。(保護者)

## 4 第3回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢東小学校)

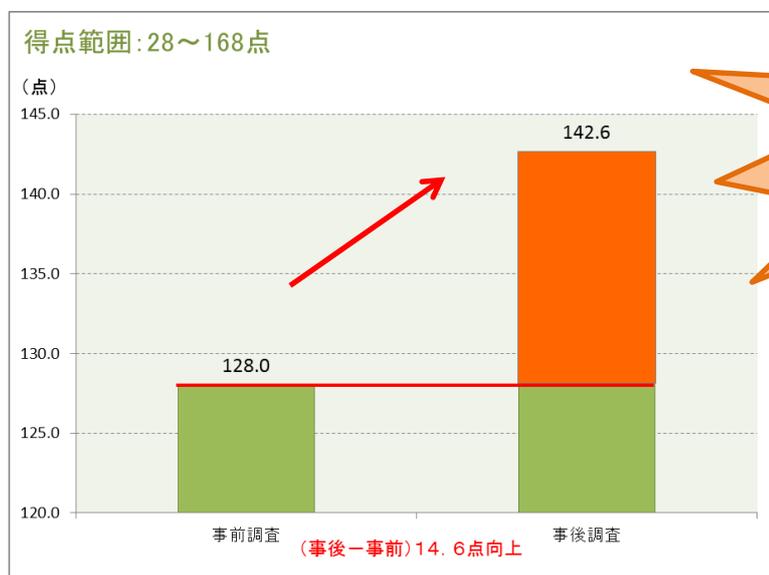
平成25年11月10日(日)～16日(土)

### 生きる力の向上

平成25年度参加した児童16名を対象として「IKR評定用紙(簡易版)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

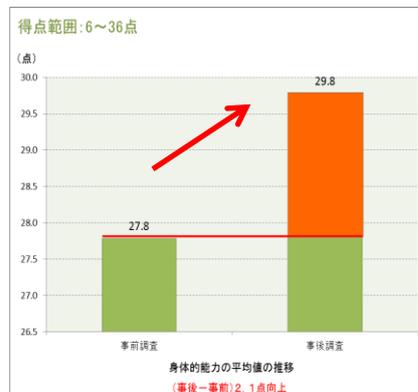
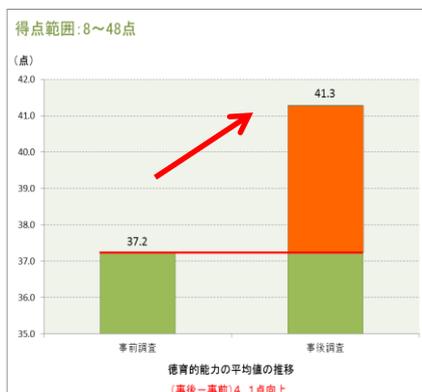
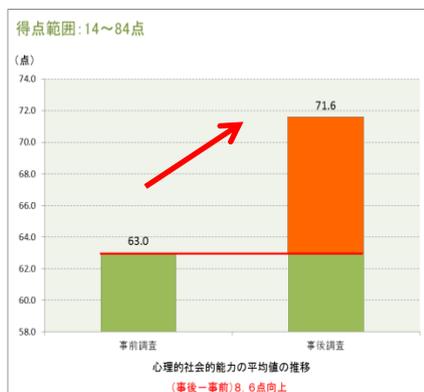
事前から事後にかけて「生きる力」の得点が上がることが分かった。また、「心理社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

#### ▶生きる力の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

#### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
<b>生きる力</b>			<b>128.0</b>	<b>142.6</b>	<b>*</b>
<b>心理的社会的能力</b>			<b>63.0</b>	<b>71.6</b>	<b>*</b>
非依存	1	いやなことは、いやとはっきり言える	5.1	5.5	*
	15	小さな失敗をおそれない	4.6	5.1	*
積極性	11	自分からすすんで何でもやる	4.4	5.4	*
	25	前向きに、物事を考えられる	4.1	5.1	*
明朗性	5	だれにでも話しかけることができる	4.8	5.4	*
	19	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.9	5.4	*
交友・協調	7	多くの人に好かれている	3.2	3.6	*
	21	だれとでも仲よくできる	4.9	5.3	*
現実肯定	9	自分のことが大好きである	3.5	4.2	*
	23	だれにでも、あいさつができる	5.4	5.4	*
視野・判断	3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.1	5.3	*
	17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.1	5.0	*
適応行動	8	人の話をきちんと聞くことができる	4.9	5.6	*
	22	その場にふさわしい行動ができる	4.8	5.3	*
<b>徳育的能力</b>			<b>37.2</b>	<b>41.3</b>	<b>*</b>
自己規制	14	自分かってな、わがままを言わない	4.5	4.9	*
	28	お金やモノのむだ使いをしない	4.7	4.7	*
自然への関心	6	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.1	4.9	*
	20	季節の変化を感じることができる	4.9	5.6	*
まじめ・勤勉	12	いやがらずに、よく働く	4.3	5.0	*
	26	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.5	5.3	*
思いやり	2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.6	5.4	*
	16	人の心の痛みがわかる	4.6	5.4	*
<b>身体的能力</b>			<b>27.8</b>	<b>29.8</b>	<b>*</b>
日常的行動力	13	早寝早起きである	4.4	5.1	*
	27	からだを動かしても、疲れにくい	4.6	4.9	*
身体的耐性	4	暑さや寒さに、まけない	4.4	5.0	*
	18	とても痛いケガをしても、がまんできる	4.8	4.8	*
野外技能・生活	10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	5.1	5.1	*
	24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.5	4.9	*

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者 & 保護者の声



テレビやゲームがなくて不便だったけど、その分色々な人とたくさん話せた。一緒にお風呂に入ったり、いっしょにご飯を食べたりしたのはとてもいい思い出になった。(参加児童)

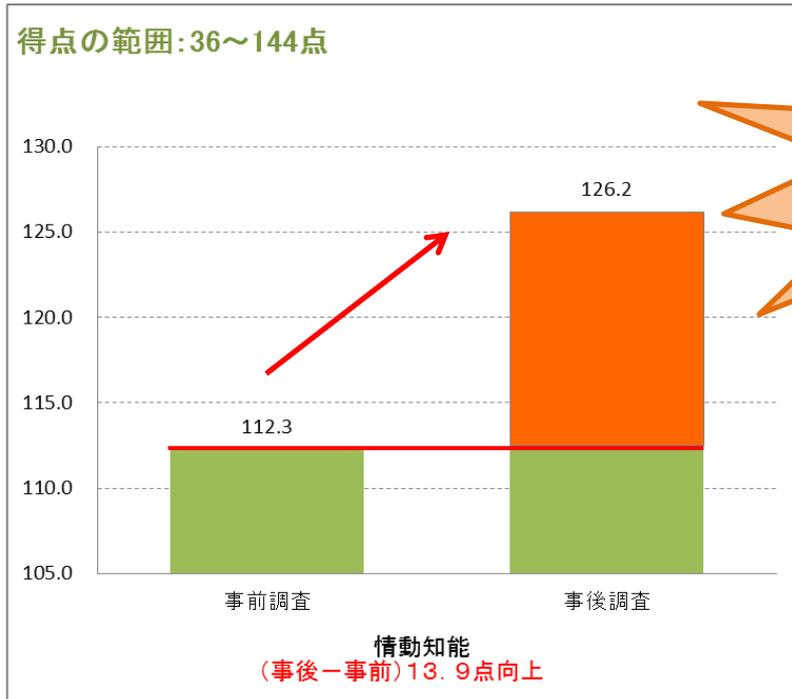
たくさんの人と交流をもてたことがとても楽しかったよう。週末はスポ少の遠征で泊まりに行く事もあるが、“テンパークで一週間過ごせたのだから自分のことは自分でできるだろう”と、親も安心して子どもを送り出せるようになった。(保護者)

## 情動知能の向上

平成25年度参加した児童16名を対象として「EQSC(児童用情動知能尺度)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

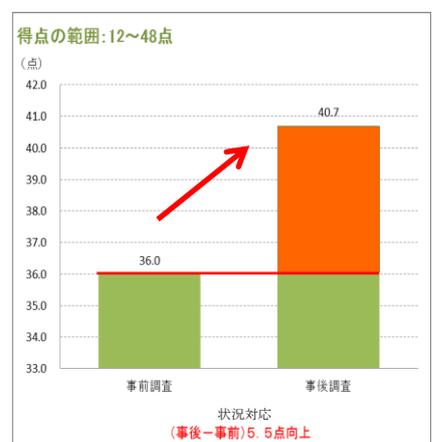
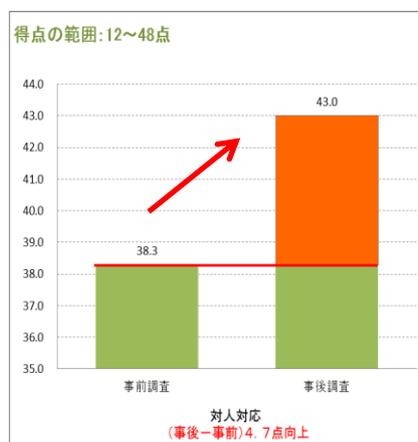
事前から事後にかけて「情動知能」の得点が上がることが分かった。また、「自己対応能力」「対人対応能力」「状況対応能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

### ▶情動知能の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を4点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
情動知能			112.3	126.2	*
自己対応能力			38.0	42.5	*
自己洞察	1	自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる	9.6	10.6	
	2	自分の気持ちが、変化するのわかる			
	3	今の自分の気持ちを言葉で表すことができる			
自己動機づけ	4	自分でやろうと思ってやり始めたことは、続けていきたい	9.8	11.2	*
	5	一度やり始めたことは、最後までやり通したい			
	6	すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている			
目標追求	7	自分でやると決めたことは、やりとげようとしている	9.6	10.6	*
	8	やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う			
	9	目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる			
自制心	10	自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している	9.0	10.1	*
	11	休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる			
	12	いやなことがあっても、友達にやつあたりしない			
対人対応能力			38.3	43.0	*
共感性	13	友達が喜ぶことをしてあげたくなる	10.0	11.0	*
	14	どうすれば友達に喜んでもらえるかを考えたい			
	15	困っている友達がいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う			
愛他心	16	友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う	10.0	10.9	
	17	友達が嫌がることは言わない			
	18	困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う			
協力	19	だれにでも、進んで手を貸してあげられる	8.4	9.8	*
	20	みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う			
	21	同じ友達とだけではなく、いろいろな友達と遊んでいる			
人材活用力	22	友達に手伝いをたのむことができる	9.9	11.3	*
	23	けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある			
	24	初めて会った人も、すぐに友達になる			
状況対応能力			36.0	40.7	*
気配り	25	その場のふんいきをこわさないように気をつけている	9.2	10.6	*
	26	みんなで何かを決めるとき、みんなの意見をきちんと聞いて決めている			
	27	朝の会、帰りの会などの司会をテキパキとやることができる			
楽天主義	28	何かを始めるときには、うまくいこうと思う	9.0	10.2	*
	29	失敗することを考えるより、まずやってみようと思う			
	30	今日うまくいかないことも、明日になればうまくいきそうだと思う			
リーダーシップ	31	リーダーとして、みんなをまとめていくことが得意である	8.5	9.3	
	32	自分が見つけた良い方法を、みんなにすすめることができる			
	33	みんなと相談するときには、まとめ役をすることが多い			
状況コントロール	34	班がえがあっても、すぐに班の人たちと仲良くできる	9.3	10.6	*
	35	何か困ったことが起こっても、どうしたらよいか考えられる			
	36	その場面に合わせて、行動することができる			

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者 & 保護者の声



最初はみんなと仲良くなれるか不安だったけど、ずっといっしょに過ごしていっしょに笑ったり、少しけんかもしたけど、それもみんな楽しいと今は思っている。(参加児童)

普段から面倒見はいい方だったが、一週間離れて生活し、帰ってきたらより弟妹を愛しくかわいがるようになった。(保護者)

## 5 第4回「テンちゃん一家の一週間」(滝沢第二小学校・滝沢東小学校)

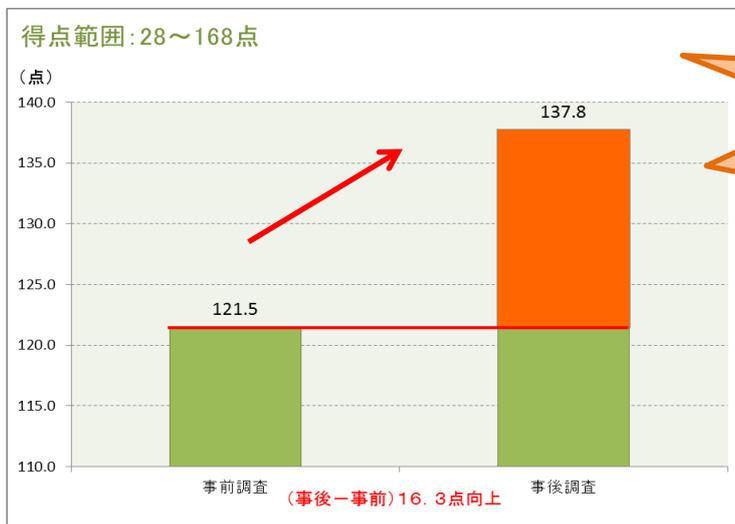
平成26年11月9日(日)～15日(土)

### 生きる力の向上

平成26年度参加した児童41名を対象として「IKR評定用紙(簡易版)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

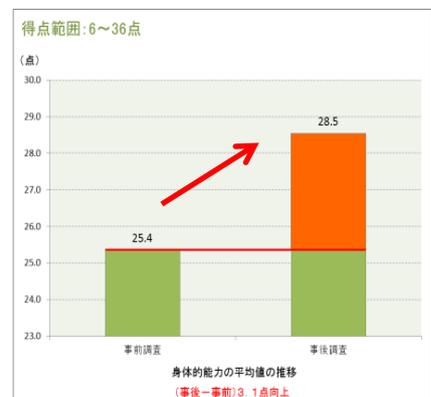
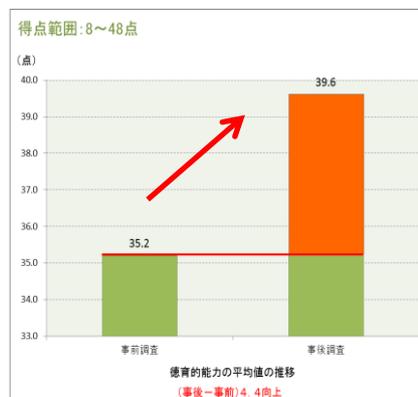
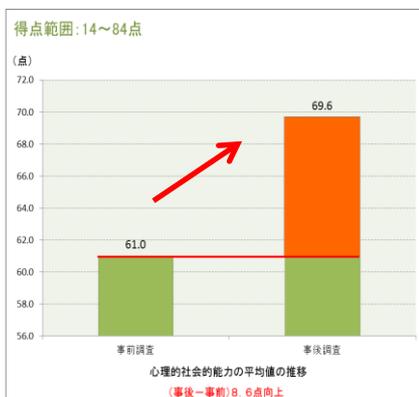
事前から事後にかけて「生きる力」の得点が上がることが分かった。また、「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

#### ▶生きる力の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

#### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
<b>生きる力</b>			<b>121.5</b>	<b>137.8</b>	<b>*</b>
<b>心理的社会的能力</b>			<b>61.0</b>	<b>69.6</b>	<b>*</b>
非依存	1	いやなことは、いやとはっきり言える	4.7	5.3	*
	15	小さな失敗をおそれない	4.7	5.0	*
積極性	11	自分からすすんで何でもやる	4.1	4.9	*
	25	前向きに、物事を考えられる	4.2	5.2	*
明朗性	5	だれにでも話しかけることができる	4.4	5.1	*
	19	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.4	5.1	*
交友・協調	7	多くの人に好かれている	4.1	4.4	*
	21	だれとでも仲よくできる	4.6	5.1	*
現実肯定	9	自分のことが大好きである	3.8	4.1	*
	23	だれにでも、あいさつができる	4.8	5.4	*
視野・判断	3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.0	4.8	*
	17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.4	5.2	*
適応行動	8	人の話をきちんと聞くことができる	4.7	4.9	*
	22	その場にふさわしい行動ができる	4.4	5.2	*
<b>徳育的能力</b>			<b>35.2</b>	<b>39.6</b>	<b>*</b>
自己規制	14	自分かってな、わがままを言わない	4.1	4.7	*
	28	お金やモノのむだ使いをしない	4.0	5.0	*
自然への関心	6	花や風景などの美しいものに、感動できる	3.8	4.5	*
	20	季節の変化を感じることができる	4.9	5.4	*
まじめ・勤勉	12	いやがらずに、よく働く	4.3	4.6	*
	26	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	4.8	5.2	*
思いやり	2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.7	5.2	*
	16	人の心の痛みがわかる	4.6	5.1	*
<b>身体的能力</b>			<b>25.4</b>	<b>28.5</b>	<b>*</b>
日常的行動力	13	早寝早起きである	3.8	4.6	*
	27	からだを動かしても、疲れにくい	4.5	5.0	*
身体的耐性	4	暑さや寒さに、まけない	4.5	4.9	*
	18	とても痛いケガをしても、がまんできる	4.6	4.9	*
野外技能・生活	10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.5	4.8	*
	24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	3.6	4.3	*

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者&保護者の声



初めて参加してみて、とても楽しかったし、友達もたくさんふえたのでよかった。星座観察はとても勉強になった。色々な人に自分からあいさつすることができた。(参加児童)

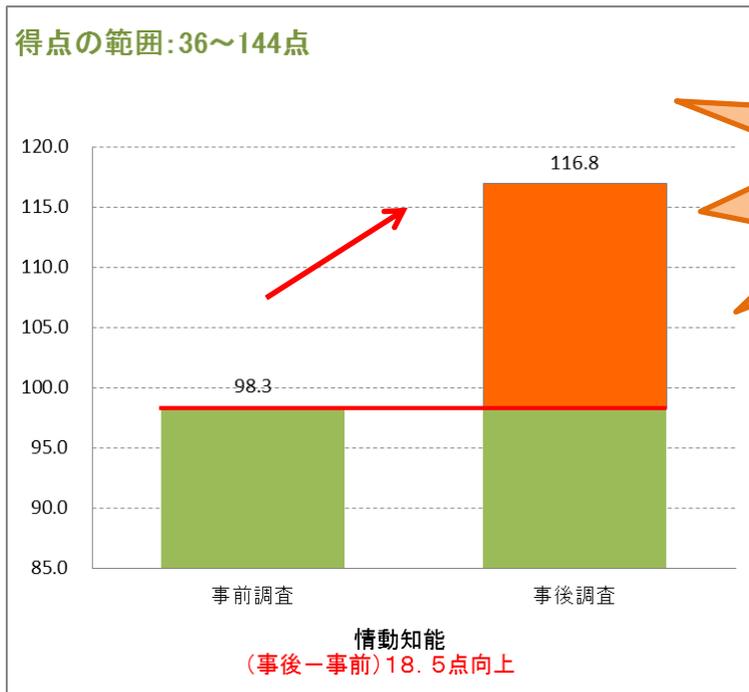
雪が降り始めてから言われなくても雪かきをしたり、気が付いて自分でできることはしてくれるようになったと思う。一週間親元を離れて過ごし、精神的に少し成長して戻ってきてくれたように思う。(保護者)

## 情動知能の向上

平成26年度参加した児童41名を対象として「EQSC(児童用情動知能尺度)」を用いて、生きる力の測定・分析を行った。合宿初日と最終日にアンケート調査を実施し、分析ツールを使用して分析を行った結果以下の効果が明らかになった。

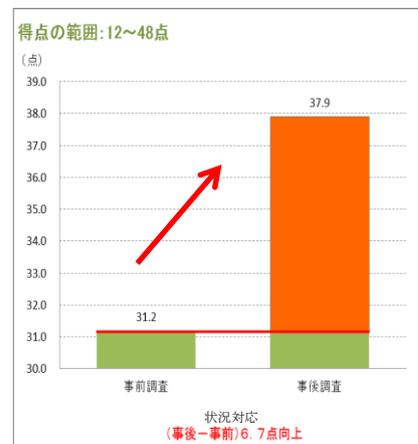
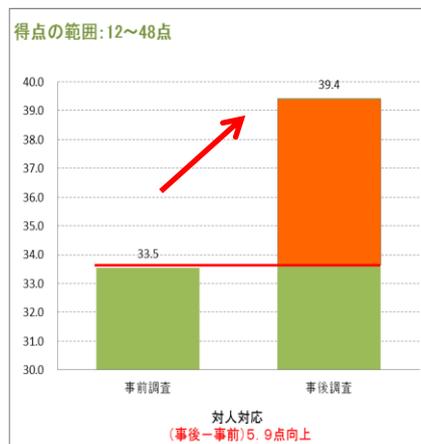
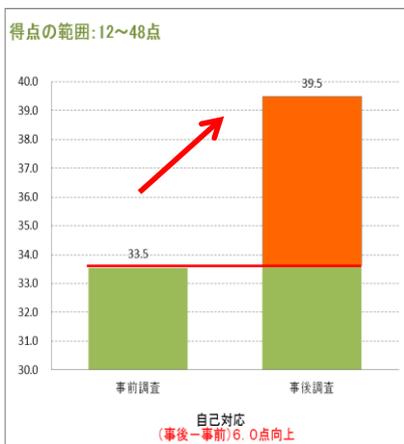
事前から事後にかけて「情動知能」の得点が上がることが分かった。また、「自己対応能力」「対人対応能力」「状況対応能力」の3つの能力及び、それらを構成する能力のすべてに向上が見られた。

### ▶情動知能の変容



各質問項目の回答に対して「とてもよくあてはまる」を4点、「まったくあてはまらない」を1点として1点刻みで得点化し、各調査時期における平均・標準偏差を算出した。

### ▶3つの上位能力の変容



▶各調査期における各項目の変容

能力	No.	調査項目	事前調査	事後調査	有意差
			平均	平均	
情動知能			98.3	116.8	*
自己対応能力			33.5	39.4	*
自己洞察	1	自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる	7.8	10.4	*
	2	自分の気持ちが、変化するのわかる			
	3	今の自分の気持ちを言葉で表すことができる			
自己動機づけ	4	自分でやろうと思ってやり始めたことは、続けていきたい	9.0	10.0	*
	5	一度やり始めたことは、最後までやり通したい			
	6	すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている			
目標追求	7	自分でやると決めたことは、やりとげるようにしている	8.3	9.7	*
	8	やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う			
	9	目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる			
自制心	10	自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している	8.4	9.4	*
	11	休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる			
	12	いやなことがあっても、友達にやつあたりしない			
対人対応能力			33.5	39.5	*
共感性	13	友達が喜ぶことをしてあげたくなる	9.1	9.9	*
	14	どうすれば友達に喜んでもらえるかを考えたい			
	15	困っている友達がいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う			
愛他心	16	友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う	8.9	10.3	*
	17	友達が嫌がることは言わない			
	18	困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う			
協力	19	だれにでも、進んで手を貸してあげられる	7.3	9.4	*
	20	みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う			
	21	同じ友達とだけではなく、いろいろな友達と遊んでいる			
人材活用力	22	友達に手伝いをたのむことができる	8.1	9.9	*
	23	けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある			
	24	初めて会った人も、すぐに友達になる			
状況対応能力			31.2	37.9	*
気配り	25	その場のふんいきをこわさないように気をつけている	8.1	9.8	*
	26	みんなで何かを決めるとき、みんなの意見をきちんと聞いて決めている			
	27	朝の会、帰りの会などの司会をテキパキとやることができる			
楽天主義	28	何かを始めるときには、うまくいこうと思う	8.1	9.7	*
	29	失敗することを考えるより、まずやってみようと思う			
	30	今日うまくいかないことも、明日になればうまくいきそうだと思う			
リーダーシップ	31	リーダーとして、みんなをまとめていくことが得意である	6.6	8.7	*
	32	自分が見つけた良い方法を、みんなにすすめることができる			
	33	みんなと相談するときには、まとめ役をすることが多い			
状況コントロール	34	班がえがあっても、すぐに班の人たちと仲良くできる	8.3	9.7	*
	35	何か困ったことが起こっても、どうしたらよいか考えられる			
	36	その場面に合わせて、行動することができる			

\*=統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

※小数点以下の四捨五入により、合計が実際の数値とは異なる場合があります

## 参加者 & 保護者の声



違う学校の人と友達になれて友達がふえてうれしかった。前から友達だった人とももっと仲良くなれてうれしい。実験や観察、班の人と協力してゲームなどをして楽しかった。(参加児童)

テンちゃん一家の一週間が終わってからは、進んでお手伝いをしたり、弟や妹の面倒を見てくれていろいろと教えたりする姿が見られた。お兄さんになって帰ってきた。家族愛も増したように感じ、参加させてよかったと思う。(保護者)

## V 保護者アンケートから

保護者アンケートについて、回答数が多かった平成26年度のアンケートを分析した。  
(参加者41名・回答数33名・回答率80.5%)

質問項目は1. 食事のとり方、2. 早寝早起き、3. 入浴の仕方、4. 言葉遣い、5. 整理整頓、6. 宿題の取り組み、及び自由記述の7項目である。

1. 3. 4. 6については(良くなった・変わらない・悪くなった)、2. 5については(できるようになった・少しできるようになった・できるようにならなかった・以前からできている)の中から回答を選択していただいた。

対象	食事	早寝早起	入浴	言葉遣い	整理整頓	宿題
全体	3/33	10/33	3/33	0/33	16/33	10/33
二小	3/19	6/19	1/19	0/19	10/19	5/19
東小	0/14	4/14	2/14	0/14	6/14	5/14
男	2/17	2/17	1/17	0/17	7/17	3/17
女	1/16	8/16	2/16	0/16	9/16	7/16
4年	2/13	4/13	2/13	0/13	5/13	5/13
5年	0/9	5/9	1/9	0/9	6/9	3/9
6年	1/11	1/11	0/11	0/11	5/11	2/11

上の図は、質問項目に対して、良くなった・できるようになった・少しできるようになったの向上を表す言葉が選択された人数である。整理整頓で約半数、早寝早起きと宿題で約1/3に向上が見られたと保護者の方が感じたということになる。

学校別に比較したが、第二小学校と東小学校で大きな差異はなかった。男女別で比較すると男子よりも女子により多く向上が見られた。学年別の比較では、6年生に比べて4年生に向上が見られるが、5年生が向上が多いことや、整理整頓では6年生も多く向上しているため、学年での差の特定までは至っていない。

次に、特に向上が多く見られた早寝早起き・整理整頓・宿題の3項目について検証した。

### ○整理整頓

テンちゃん一家の家訓(お家の約束)

- 一. 心も身体も健康でいること
- 二. 元気にあいさつをかわすこと
- 三. 時間を守って行動すること
- 四. 自分でできることは自分ですること
- 五. 話をする人の目を見て聞くこと
- 六. グループや同じ部屋の人と行動すること
- 七. 一日一回は「ありがとう」と言うこと
- 八. 整理整頓に心がけること
- 九. 楽しむ時と、まじめに取り組む時の区切りをしっかりとつけること
- 十. こまったことがあったら友達やスタッフに相談すること

一番向上が見られた整理整頓について左図の家訓を確認すると、八. に整理整頓がある。

食事や言葉遣いに比べ、最初に提示した家訓に記載されていたため、子供たちのビーイングにも当初から目標として書かれていた数が多くなっている。

ビーイングからの検証をするため、班毎に整理整頓の向上について見てみると、3班が7人中5人が向上(1名未提出

のため5/6)しており、他の班に比べて目立つ。  
 3班の家訓を確認すると三.に整理整頓が入っているほかに、八.にさらに掘り下げて、身の回りのことは自分で責任を持ってやる事が加えられている。ほかの班の家訓にも整理整頓が入っている班もあるが、それをさらに自主的に自分達の言葉に置き換え、ルールにすることが出来たことが、家庭に帰っても実行することができたのではないかと推察できる。

### 3班の家訓

- 一、一日一人以上笑めせて笑顔で生活すること！
- 二、他人の意見を尊重して、みんなと協力すること！
- 三、整理整頓すること！
- 四、五分前行動をして、時間を守って動くこと！
- 五、切り替えをきちんとして、けじめをつけること！
- 六、生活リズムを整えること！
- 七、困ったことがあったら、友だちを頼って、すぐに相談すること！
- 八、身の回りのことは自分で責任をもつこと！
- 九、人に親切をしてもらったら、ありがとうということ！
- 十、ずれた人とはしゃべらないこと！

### ○早寝早起き

早寝早起きについては、特に女子の半数に向上が見られ、男子より女子が優秀に見える。しかし、実際 消灯時間にいつまでも寝ずにおしゃべりをし、担当者を困らせたのは女子だった。

班別に向上を確認すると各班1～2名と極端なデータの差はない。班毎の家訓を確認すると4班の家訓に早寝早起きがでてくる。4班は夜、特にうるさく、同室内や隣の部屋ともめ、「これ以上うるさくて寝れないなら、もうキャンプから帰りたい」という子どもが出るなど、トラブルがあった。そこで、4班では子供達自身

で家訓にこのルールを加えたのではないかと推察できる。4班女子4名中2名に向上(2名は未提出)しているため、嫌な思いもあったと思うが、それが成長につながっていることを望む。

### 四班の家訓

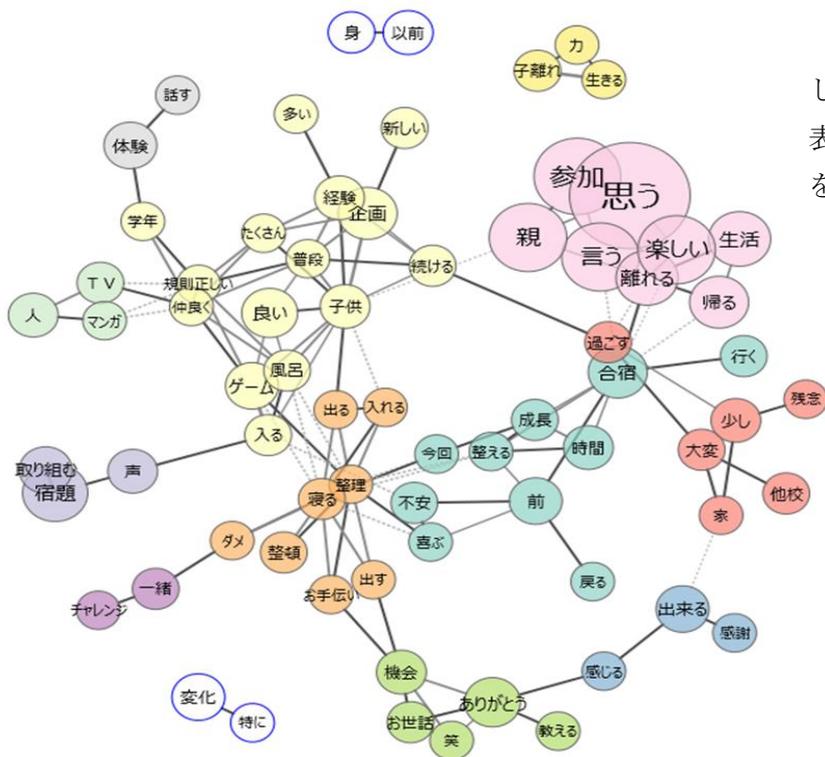
- 一、笑顔を忘れずに生活すること
- 二、時間を見て行動すること
- 三、相手の気持ちをよく考えてみんなと助け合い誰とでも仲よくすること
- 四、早寝早起きをしっかりと、健康に心がけること
- 五、あいさつをされた人が気持ちよくなるようにあいさつをすること
- 六、一人でできないことをみんなと協力してやりとげる

### ○宿題

これについては、班活動から離れた部分もあり、友達からの影響が大きい。普段あまりやらない子供もみんながやっていたら、自ずとやることになり、毎日繰り返されることで、他人の取り組み状況が見えてくる。他校の友達からの影響も大きいと考えられる。加えて、これも男子に比べ女子の方に向上がやや多い傾向があり、女子の方が男子に比べコミュニティを形成する傾向が強いため、友達からの影響を受けやすいのではないかと推察される。



次に KH コーダーを用いて自由記述について分析した。



左図は出現回数の多い言葉とその関連性を表している。(言葉の近さや線の太さで関連性を表している。) 下図は3回以上記載された言葉をまとめた表である。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	27	前	5	子ども	3
参加	16	体験	5	子離れ	3
楽しい	13	変化	5	寝る	3
言う	13	以前	4	新しい	3
親	13	機会	4	身	3
自分	9	経験	4	進む	3
宿題	9	子供	4	成長	3
友達	9	時間	4	整頓	3
生活	8	少し	4	続ける	3
離れる	8	人	4	他家	3
企画	7	声	4	大変	3
帰る	7	TV	3	入る	3
合宿	7	お世話	3	不安	3
良い	6	一緒	3	風呂	3
ゲーム	5	過ごす	3	変わる	3
取り組む	5	見る	3		
出来る	5	行く	3		

出現回数の多い言葉をピックアップすると、「参加」については「良い経験が出来た。新しい友達が出来た。子どもが楽しかったと言って帰ってきた。良い企画なのでこれからも続けて欲しい」など肯定的なご意見をたくさんいただいた。

「宿題」についての記述も多く、「声掛けしなくても自分から進んで取り組むようになった」という記述が複数あり、事業のねらいが成功している例といえる。

しかし、「変化」についてはなかったとのつながりも多く、1～6の質問項目でも変化がなかったという回答の方が多い。より多くの参加者に影響を与えるようなプログラムや意識づけなども検討が必要と考える。

こちらが意図していない言葉では、「親離れ」「子離れ」が多く記述された。中には「親離れ、子離れが目的で参加しました。」「家から離れて生活することで生きる力を身に付けさせたい」などの記述もあり、そういったねらいで事業に参加している子どもがいることが分かった。

子どもの生活面の変化は特になかったが、「1週間親元を離れ一回り大人に成長して帰ってきたと思う。」という変化を感じ、来年も参加させたいという方も多く、そういった保護者のニーズに応える形にもなっている。

### <まとめ>

以上の考察から、

- キャンプ期間中、やらされではなく、自分から自主的に取り組めた内容は、家に帰ってからも継続して行動できている。
- 生活面での変化は少なかったが、親離れをとおして精神的に成長し、生きる力を身に付けるなど、キャンプが子どもたちにとって良い経験になっていると感じている保護者が多い。

などのことがわかった。自主性については最初に所側で示す家訓(ルール)の影響を大いに受けており、こちらでの設定の仕方など工夫が必要と感じた。また、男女による向上の差が本当にあるのかなど、今後も以降も検証していく必要がある。

# VI ボランティアレポート

子供たちが一週間の生活を続ける際、その指導・支援には職員のほかに施設ボランティアの存在が不可欠である。彼らも日中は本文である大学での学業に励みながら、夜には交流の家で子供たちと生活を共にしていった。

特に、各班のグループリーダーのボランティアは、グループの子供たちに添い、学習・生活における支援に当たった。健康面の観察や心のケア等、細部にわたり子供たちの拠りどころとなった。

また、グループリーダーの補佐・援助等を担うボランティアとして、統括リーダーを複数のグループごとにまとめて配置した。統括リーダーは、グループリーダーの補佐・援助とともに、グループリーダーへ子供たちへの関わり方などを助言する立場として、施設ボランティアの経験が豊かな先輩ボランティアが担った。

さらに、ボランティア全員を統括し、職員との連絡・調整役としての統括チーフも配置し、ボランティアのケアもできるような組織で一週間の合宿を行った。

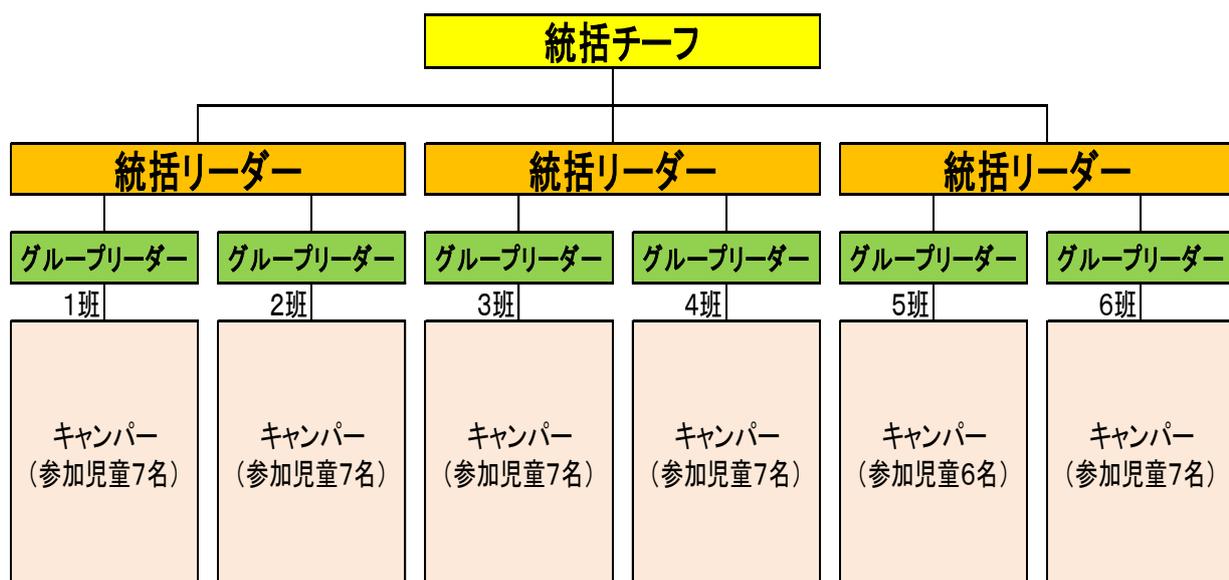
この「テンちゃん一家の一週間」は、参加する子供たちの成長はもちろんだが、ボランティアにとってもスキルアップをすることのできる合宿である。ボランティアには教職を目指すものも多く、子供たちと深く関わる経験をしていくことで、自身の成長を実感する者も多かった。

## 1 テンちゃん一家の一週間 組織図

【第4回（平成26年度 滝沢第二小学校滝沢東小学校）の例】

### 【教育事業】テンちゃん一家の一週間 ボランティアスタッフ・キャンパー組織図

岩手山青少年交流の家 職員



## 2 ボランティアスタッフのレポート（日々のふりかえりシートから）

< 1 日目 >

○私の班は5年生ということで、子供たちにどれだけの力があるのか、どこまで任せてよいのか、手探り状態から始まりましたが、慣れてくると子供たちは思っている以上に話しかけてくれたり、質問をしてきてくれたりしました。また、スタッフ側から歩み寄るすきを見せないくらい活発で驚きました。自分で考える力もしっかりもち、お互いを思いやる場面も多々見られたので安心しました。明日以降、もっと子供たちに任せながら（健康と安全にはしっかり気を配りながら）、子供たちを信じて活動していきたいと思います。（3年生 女子学生）

○今日一日過ごしてみて、自分のことに関しては、まず、コミュニケーションをとることが不足しがちだったと思います。私の言葉が足りなかったり、この後どう進行していけばいいのか迷ったりして、話し合いの中で無言状態が続くこともありました。また、班の子供たち一人一人としっかりと接する機会がなかったなど、自分の力不足を痛感しました。Yさん（先輩ボランティア）がフォローしてくれましたが、話し合いなどではYさんが話したりすすめたりする場面が多く、それを見ながら、今このタイミングで声をかけるべきだったんだ、こういう声掛けが求められていたんだなどと勉強になりました。と同時に自分のふがいなさも感じました。自分のことだけでなく、もっと子供たちに目を向けていかなければならないと思います。優しい子供たちがたくさんいると感じました。初日ということで気を使っていると感じる子供もいましたが、そういった子供たちのいいところをもっと引き出せるようになりたいと思います。

（1年生 女子学生）

< 2 日目 >

○班でのビーイングの時に子供たちが自分から話してくれず、この班はこれからまとまっていくのかとても不安を感じました。しかし、ボランティアミーティングで言われたように、あせらずに子供たちの日々の成長を少しの不安と期待をもちながら接するように心がけたいと思います。成長を感じられたらほめたり声掛けをしたりなどの援助も忘れずにしたいです。心の感度を上げて子供との信頼関係を深めていきたいと思います。主役は子どもと意識しつつも、自分の葛藤を感じながら過ごしていきます。（2年生 女子学生）

○昨日は初日で、初めて出会った子供たちの雰囲気のみ込まれてしまいましたが、今日は子供たちの中に入りながら活動できたと感じています。子供たちの班としてのまとまりも出てきたと思います。初日は子供たち同士での仲が良くなっていたので、今日はそこに私が入っていく感じでした。子供たちは、自発性や相手を思いやる気持ちがあらゆる場面で見られたので感心しています。学校や男女の違いを感じさせない行動は本当にすごいと思っています。昨日よりも私のことを気軽に呼んでくれるようになり、話す回数も増えたので私自身が安心し、徐々に流れをつかんできました。変化を感じたポイントは、17時からの学習の時間です。勉強を教えることが最近の私の経験で慣れてきていたので、聞かれたことをすらすらと教えることができました。そのため、子供たちに安心感を与えたようです。まずは自分の行動がいつも子供に見られているという意識をもって、自分の短所（ルーズなこと）に気をつけながら、残りの日数をがんばっていきたいです。

（1年生 女子学生）

< 3 日目 >

○昨日よりも素を出す子が多くなってきているように感じました。それに伴ってふざける場面も多く見られました。遊びから発展してけんかのように手が出たり悪口が過ぎたりするのではないかと心配しています。しかし、それが子ども同士のコミュニケーションの一つだったりするので、ただのストレスのぶつけ合いのようなものはしっかり止めるなど、見極めながら子供たちを見守っていきたいです。「見守る」と「ただ見ている」の違いを自分の中で意識したいです。私自身はこの通学合宿が2回目ということで慣れが出てきてしまっているのかと思います。昨年は初めてのボランティア、しかも長期ということでもむしゃらにぶつかっていたという感じでした。初めてだらけで考える余裕も少なかったです。今回は自分の中で考える時間や周りを見ることも少しできるようになってきました。その分、ただ過ごしてしまっているのではないかと考えてしまいます。子供への気づきも少なくなっているように思え、「見守る」ではなく「ただ見ている」になっているのかと思います。子供が主役のキャンプなので、新鮮な気持ちで子供たちに接し、良さに気付いていきたいと思います。また、自分の中でも何か変わるきっかけにしたいと思います。

(2年生 女子学生)

○朝、登校バスの発車時刻を私が10分遅く認識してしまったため、子供たちに迷惑をかけてしまいました。しかし、子供たちは私を責めることもなく、気に掛ける言葉をかけてくれて、優しい子供たちだと改めて感じました。それが日常にも現れており、お互いを思いやる気持ちが強く、班意識もあり、学校での日々の訓練によるものなのかもしれないが、素晴らしいと感じています。グループリーダーとしては、風邪の症状が出ている子供を気にかけていこうと思います。それが精神的なものによるのか、しっかり判断していきたいと思います。健康観察はもちろん、一人一人をしっかり見て、言葉にも耳を傾けたいです。ビーイングで書いたことをふりかえり、私が見てうれしかったことをいくつかほめました。「できる」が子供たちの中で当たり前になっているので、「そんなの当たり前だよ」と笑って返してくれた姿に頼もしさを感じました。

(4年生 女子学生)

< 4 日目 >

○ついに折り返しということで、子供たちの関係にも大なり小なり変化が見られました。班の子と一緒に行動できず他の班の子と一緒にいる子、班での仲が深まってきて班での行動を重視する子、グループリーダーを頼りにしてくる子・・・様々な変化が起こる中で、グループリーダーがどのように対応していくべきなのかがポイントになるかなと思いました。自分もあまり経験値がないので、困っている1年生のボランティアに答えを出してあげられることはないけれど、聞いてうなずいて共感してあげるだけで少し楽にさせてあげることができるのであれば、たくさん話を聞いてあげて解決の糸口を一緒に見つけられたらよいと思います。職員さんや先輩ボランティアの子供への問いかけ等を見ながら、ヒントを自分でも見つけていきたいと思えます。あと3日、全員そろって最後をむかえたいです。

(3年生 女子学生)

○私の班は、食べ物に塩をかける癖ができてしまい、食事に関してかなり危険な状況にあると思います。注意をし始めました。しかし、なおる気配がないため引き続き注意をしようと思います。子供たちのチャレンジを促すための仕掛けをもっと考えたいです。自ら発言したり行動し

たりするためには、いかにして良い発問をし、自分たちで考えさせるかだと思います。その他、今日の反省点として、各リーダーを（男女それぞれに）つくることができなかつたことや、班の中で行動が遅い子を非難するような雰囲気にしてしまったことがあります。私の発想力のなさや言葉数の少なさがこのような結果になったことは悔やまれます。明日は、「すべきことはなにか」「班で行動、みんなで発言」をテーマに頑張りたいです。（3年生 男子学生）

<5日目>

○今日はいつも以上に班としての感じ方や接し方が自分なりに変化をつけることができたし、班のまとまりも感じられる一日だったと思います。ドッチビー大会では、負けても次を考えてどうやったら勝利できるか子供たち一人一人から意見を活発に出すことができていました。やっとみんなからの意見を拾いながら班としてのまとまりを強いものにできるようになったと実感しました。私自身、子供たちと良い距離感を保ちながら、子供たちでたくさんの発言ができるようにすることができたのでよかったです。また、自分がどのように動けばよいのか考えられるほどの余裕も出てきました。班もまとまってきたと思います。明日の目標は「ほかの班とも協力する」「周りを見る」として、また頑張ります。（3年生 男子学生）

○今日は、私自身が少し具合が悪くなってしまいました。班の子の一人も腹痛を訴えてきました。そんな時、班のみんなが心配してくれて私のそばにいてくれたわってくれました。また、おなかが痛い女子に男子が「大丈夫か？無理するなよ。体調良くなったら来いよ。待ってるから。」と言っているのを聞いて感動しました。（1年生 女子学生）

<6日目>

○学校から帰ってきてからの子供たちは、疲れている中にどこか嬉しそうな表情をしていたのが印象的でした。一つ一つの行動から、とても積極性が育っているなども感じました。時間に遅れることはないけれど、子供たちの行動がどこかゆったりとしていました。明日帰ってしまうという現実から逃げたいような雰囲気にも感じました。班のまとまりという点からしてみると、成長だなと感じ、とてもうれしく思います。とにかく明日で終わりになります。しっかり頑張りたいです。（3年生 男子学生）

○今日は学校から帰ってからずっと子供たちと一緒にいられました。見ているだけで子供たちとグループリーダーとの信頼関係が見られたと思いました。初日はどうなるかと思っていましたが、どの班もまとまりが出てきたなと感じました。「家訓づくり」では、子供たちからたくさんの言葉が出てきていて、それを引き出しているグループリーダーの力もすごいなあと思ってうれしく見ていました。今日は統括リーダーとして何も手を貸すこともなく楽に一日過ごすことができたので、最後の段階に来ていることを実感しました。明日で最後、何事もなく終わることを願ってニコニコしておこうかなと思いました。（3年生 女子学生）

### 3 ボランティアスタッフのレポート（事業を終えてのふりかえりシートから）

○女子学生（1年生）

7日間という、自分の中では初めての長期キャンプでした。

子供たちに会うまでは、不安しかなかったですし、緊張もしていました。一週間通して自分で思ったことは、子供たちの力をもっと信じればよかったなということです。ビーイングでの模造紙を見て、班の子供たちが思っていることってたくさんあるんだと感ずることができたし、子供たちが共有している気持ちもたくさんあるんだなとも感じました。もっと子供たちの発言や意見を聞いて、みんなで共有していければよかったなと思いました。

子供たちが安心して様々なことにトライできる場づくりで、できるだけ話をし続ける子、しない子をつくらないように、私から言葉を投げかけていたつもりでした。私たちの班では、質問に対して「わからない」と答えた子が少なく、むしろ発言をする子が多かったので、他の人の言葉に埋もれてしまって自分の話をうまく伝えられなかったり、お互いを傷つけてしまうような言葉を投げかけていたりしてしまっている子がいて、心を傷つけていないか心配がありました。子供たちのふりかえりシートでは「楽しかった」という肯定的な感想が多く書かれてあったので少し安心しましたが、自分の中でもっと子供たちへの言葉の投げかけなどを工夫したいです。子供たちにとっては短い一週間だったようです。私も同じで、班の子供たちといると一日があつという間でした。まだまだ子供たちの目線に立って話すこともできませんが、少しずつでも、自分自身が成長していきたいと思えます。

7日間本当にありがとうございました。もっともっと子供たちと関わる事業に参加していきたいです。経験したいです。

○女子学生（1年生）

最後はみんなが笑顔で終われることを自分の中で目標に過ぎました。これまでケンカなどの問題がなかったのですが、最終日に班の子がケンカをしてしまいました。実際には自分の目で見ておらず、周りからの情報や本人たちの言い分を聞いて解決しようとしてしました。ですが、ケンカした者同士を仲直りさせるのは難しく、N（ボランティア仲間）にも協力してもらいなんとか解決しました。また、納得させるのも大変でした。自分の想いを伝えることは大変なんだなと感じました。

一週間、全体をとおしてうまくいったこともいかなかったことも自ら体験でき、とてもよい経験となりました。私の力不足が多くありましたが、ボランティアの仲間や子供たちもカバーしてくれて本当に助かりました。この一週間は、子供たちを成長させるものでもありましたが、私も成長させられるものでした。大変なこともありましたが、楽しく事業を終えることができ安心しています。毎日の関わりで反省するべき点が多くあり、また気づくことができました。子供との信頼関係、学習指導、集中のさせ方・抜かせ方など、まだまだなところがありました。今後の課題として受け止めていき、大学での実習等にも役立てたいと思っています。積極的に事業に参加し自分の力を高められるよう努力していきたいです。

短期間ではなく長期間という時間が、本当の子供の姿を見せ、その対処について学べる機会でした。一週間、職員さん方にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

○女子学生（2年生）

初めての長期間ボランティアでした。初日から子供たちの元気におしつぶされ気味で、私は、「私には一週間は無理かもしれない」と、館内オリエンテーリングをしているときに思いました。それは、自分が子供たちとの距離をうまくつかめなかったから、子供たちの輪の中に自分がどこまで踏み込んでいいのか分からなかったからです。しかし、先輩ボランティアの皆さんと職員さんの助言のおかげで頑張ることができました。少しずつ子供との距離を近く、そして、いい距離感というものをつかんでいったと思います。自分があれこれ悩んでいても、ボランティアの仲間の「話聞くよ!」の一言で頑張ることができました。話を聞いてもらえることの安心感は子供たちも同じと気づいたきっかけとなりました。職員の皆さんのお話は自分を上へ向かわせてくれて、ボランティアの仲間は横で支えてくれて、とても感謝しています。

子供たちは私が思っているより大人であること、考えがしっかりしていること、言われたことはできるということ（やるかやらないか）など、子供たちについて気づいたことがたくさんありました。子供たちへの接し方などは、最終日になってやっとわかったことも多々ありました。

子供たちも私も喜怒哀楽がいろいろありました。私自身の反省点も多々。充実しすぎて、学ぶことが多すぎて、考えることが多すぎて、悩むことも多すぎて、それでも参加して本当に良かったです。これをきっかけに自分を高めていきたいです。



# VII 成果と課題

## 1 成果

### (1) 参加児童の変容

- ・参加した児童の「生きる力」(知・徳・体のバランスのとれた力)の向上がみられた。
- ・参加した児童の「情動知能」(心の知能指数)の向上がみられた。
- ・参加した児童の基本的な生活習慣(早寝早起き・家庭学習・整理整頓等)の向上がみられた。
- ・参加した児童の精神的な成長を保護者が感じることができた。

※「IV 通学合宿の効果」(26ページ～)、「V保護者アンケートから」(43ページ～) 参照

### (2) プログラム開発

- ・「生きる力」「情動知能」の向上や、児童の変容に対する保護者の実感などから、本事業の有用性が明らかになった。
- ・「学習・交流」の時間に様々なプログラムを取り入れたことにより、参加児童が楽しんで夜の活動をすることができた。また、岩手山青少年交流の家の新たな活動プログラムの開発につながった。

### (3) ボランティアスタッフの成長

- ・児童と長期間にわたり接することで、指導・支援の難しさを体験するが、教職を目指す者にとっては、将来の糧になった。
- ・ボランティア同士の助け合いの中で、その絆が深まった。
- ・長期合宿の体験により自信と積極性を身に付け、他の様々な事業やボランティア活動に参画する者が多くなった。

※「VI ボランティアレポート」(50ページ～) 参照

## 2 課題

### (1) 参加児童の変容

- ・「生きる力」や「情動知能」の向上はみられたが、男女別や学校・学年別による向上の差など、細かな分析をし、新たな課題やニーズを明らかにしてそれに向けたプログラムを考えていきたい。

### (2) 事業実施について

- ・対象校の協力がある事業である。滝沢市や教育委員会と協力しながら、市内においては対象校に偏りがないような事業実施体制を整備したい。

### (3) スタッフ体制の整備・維持・改善

- ・長期間、児童に深く寄り添っての事業となるため、相当のスタッフが量・質ともに必要である。数年の実施により、スタッフ体制は整備されたが、それを維持・改善していくための職員の研修やボランティアの育成が必要である。



国立岩手山青少年交流の家 教育事業  
通学合宿「テンちゃん一家の一週間」  
事業報告書  
～通学型長期宿泊体験で生きる力を～

編集

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立岩手山青少年交流の家  
〒020-0601  
岩手県滝沢市後292 (<http://iwate.niye.go.jp>)



独立行政法人国立青少年教育振興機構

# 国立岩手山青少年交流の家